

< 「第2のふるさとづくりプロジェクト」 成果報告会兼第12回有識者会議 >  
令和7年度 採択事業者による今年度の取組紹介

---

令和8年3月9日(月)

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

地域名 福島県二本松市  
事業者名 一般社団法人岳温泉観光協会



# 長く歩く道が、長く関わる人をつくる 火山とともに生きる湯のまちの実証



第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

私たちは、長く歩く道が、長く関わる人をつくと仮説し  
「観光客を増やすのではなく、通う人を育てる」ことに挑戦しました。

## ■ 岳温泉の現状と数値で見る課題

### 全国的にも希少な火山性温泉地

(安達太良山から約8kmの引湯／湯守文化1200年以上)

宿泊者数：約20万人 → 14万人 (▲約30%減) ※2008年頃 → 2023年 (推計)

2011年の震災以降宿泊施設数：→25軒以上 15～17軒へ減少

安達太良山は全国有数の登山人気 (YAMAPで3年連続東北1位を獲得)

しかし **来訪の多くは日帰り**が中心

温泉利用・宿泊・地域消費への接続が弱い

登山道の大規模整備は長年未実施 → 活用と保全の両立が課題

人は来ているが、関係は残らない

## アプローチ | 火山と温泉をつなぐ地域愛着の設計

### 観光構造の転換

従来：日帰り登山・通過型観光→転換：滞在・再訪・関係人口創出型観光へ

### 地域愛 → 地域愛着の増加が地域愛を引き出す

地域愛 = 「内からの誇り」

地域愛着 = 「関係から育つ居場所感」

(来訪 → 体験 → 愛着 → 再訪 → 関与 → 地域愛 (内外循環))

「歩く」ことを起点に、火山が育んだ温泉文化  
登山道を支える自然保全や山麓の暮らしを一体的に体験させる設計

▶ 達成感ではなく、関係性をつくる

**VOLCANO TRAIL** の活用に活用による

ロングディスタンスハイカーをターゲットにした  
第2のふるさとづくりを目指した。

■ ターゲット

ターゲット	メイン	ロングディスタンスハイカー・長く歩く旅志向の登山者 (複数日に分けて歩くことを楽しみ、自然・文化・保全への関心が高く、滞在や再訪、発信につながりやすい層)
	サブ	中・短距離登山者、温泉・文化体験を重視するアウトドア志向層 (週末や連休に山と温泉を組み合わせた滞在を求め、日帰り登山から宿泊利用への転換が期待できる層)
	その他狙い	地域外の保全関心層・アウトドア企業関係者・インバウンド登山者

ロングディスタンスハイカーは

- ✓ 長く歩くことを目的にする
- ✓ 文化・物語に感受性が高い
- ✓ 自分のペースで再訪する
- ✓ 環境保全への意識が高い
- ✓ 発信力がある

▶ 地域愛着が育ちやすい層傾向を世界のロングディスタンス文化、みちのく潮風トレイルから読み解く。



■ 【旅マエ・旅ナカ・旅アト】

旅マエ

- ・ 自然センターによる発信
- ・ 受け入れ環境整備 (山旅タクシー；荷物配送等)
- ・ 世界基準の自然倫理共有と人材育成 (レンジャー・LNTインストラクター)

旅ナカ

- ・ VOLCANOツアー (源泉)
- ・ セルフハイカー
- ・ 登山道保全体験ツアー
- ・ 親子・サイクルなど多様な入口を用意し、メイン以外の裾野を広げるチャレンジ

旅アト

- ・ SNSアンバサダー (感動共有)
- ・ 寄付型商品応援
- ・ 再訪循環設計  
ツアー ⇄ 登山道整備
- ・ 地域関係者フィードバックと広域連携 (福島市連携)

# VOLCANO TRAIL

磐梯・吾妻・安達太良 ボルケーノトレイル® Bandai-Azuma-Adataro Volcano Trail  
ATA: Azuma to Adataro

安達太良・吾妻自然センターは、磐梯朝日国立公園に広がる3つの活火山と湖沼群をつなぐロングトレイルハイキングルート「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル」のトレイルセンターの役割を担っています。日本百名山にも数えられる「磐梯山（標高1816m）」、「吾妻山（標高2035m）」、「安達太良山（標高1700m）」をつなぎ、周囲に点在する古くからの温泉地や山小屋、キャンプ場などに泊まりながら「旅」としての山歩きを楽しむことができるルートのご提案をしています。

このロングトレイルの特徴は、なんと言っても旅路の中で3つの活火山＝VOLCANO（ボルケーノ）を巡ること。磐梯朝日国立公園の中でも同じ「磐梯吾妻・猪苗代地域」にありながら、その山容や成り立ちも含めて三火山三様であり、それぞれのストーリーを察して歩くからこそ見えてくる情景こそが、このトレイルの最大の魅力です。

また、火山の噴火活動がくり出した自然造形にも触れながら歩くことができるのも、ボルケーノトレイルならではの、磐梯山の山体崩壊により形成された捨原湖は、日本一大きな火山性の堰止湖としても知られています。その他にも日本で4番目に大きな湖「猪苗代湖」や、裏磐梯の人気観光スポット「五色沼湖沼群」、そして吾妻連峰の東には魔女の窟とも称される火山湖「五色沼」や「吾妻小富士」なども見られます。そしてこのトレイルのクライマックスは、安達太良連峰。ここでは、直径1km以上の巨大な爆裂火山「沼ノ平」を周回することができ、1000年以上続く温泉地「岳温泉」の源泉を眺めながら、このロングディスタンスハイキングを締めくくります。

それらのランドマークを繋げた総延長は200km以上。現在は、そのうちの約70kmをATA(Azuma to Adataro)として発表し、公式マップの販売や案内を開始しています。



磐梯朝日国立公園 安達太良・吾妻自然センター  
Bandai-Asahi National Park Adataro-Azuma Nature Center

Adataro Azuma Nature Center (安達太良・吾妻自然センター)は、磐梯朝日国立公園の「磐梯吾妻・猪苗代地域」に関する情報提供やツアー、登山などの環境保全を行うため、安達太良山の麓にある「岳温泉（だけのおんせん）」内に開設（2023年7月）した民間運営のトレイルセンターです。群馬県内に集まる3つの活火山（磐梯山・吾妻山・安達太良山）と山麓の温泉地を繋ぐロングトレイル「磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル」の運営も行っており、同地域でのロングディスタンスハイキング、トレイルランニング、バイクパッキング、キャンプなど、野外アクティビティに関する各種サポートや、トレイルマップの制作なども行っています。

また、「健全＝50：50」をブランドプロミスとして掲げ、アドベンチャータラベルなど国立公園の利用に対して、登山道整備や歩道整備などを含む環境保全や次世代のガイドやレンジャー育成に資する活動制を等額またはそれ以上として活動を行っています。自然センター内には、カフェ・物販・日帰り温泉・風呂宿泊施設なども併設し、地域コミュニティのハブとしても機能しはじめています。



@adataro\_nc



## 磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル® ATA: Azuma to Adataro



磐梯朝日国立公園内の活火山帯とその火山の恩恵である福島市・高湯温泉から二本松市・岳温泉をつなぐ日本でもここにしかない72キロのロングトレイル

①ボルケーノトレイル・火山旅

実施内容 | 16の山旅プログラム

源泉ツアー

ウルトラハイキングレース

親子火山旅

Bike/Hikeサイクルツアー

登山道保全体験

視察・人材育成

👉 多様な入口づくり



源泉ツアー



親子・山旅



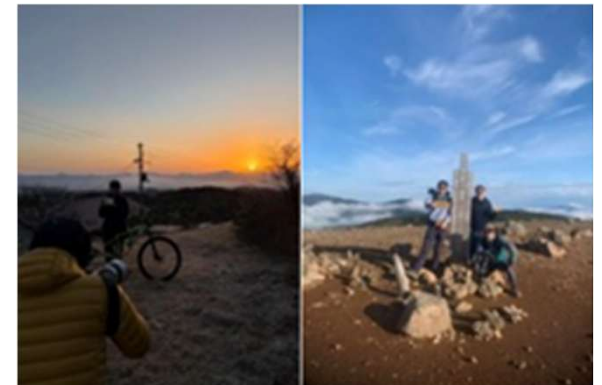
ウルトラハイキングレース



登山道整備体験



BIKE/HIKE・サイクルツアー



山小屋ツアー

②ハイカーフレンドリーを目指す

「歩く人が自然に戻り、都市と地域を往復する“帰って来られるトレイル拠点”の形成」と環境受け入れ整備

本事業では、ツアー参加者だけでなく、自分のペースで歩くロングディスタンスのセルフハイカーにも着目し、受入環境を整備した。高湯温泉から岳温泉へと温泉を結ぶボルケーノトレイルのゴールに位置する安達太良・吾妻自然センターへの立ち寄りが増加。前泊・後泊利用や山小屋プランの活用も拡大した。早朝送迎や情報発信、相談対応を強化し、「歩いて帰ってこられる拠点」として機能し始め、再訪するハイカーが増えている。



■安達太良・吾妻 山旅タクシーとトラベルサービス充填に向けて



山旅タクシー

- 定額タクシー  
 ①岳温泉-奥岳登山口  
 ②岳温泉-権沢登山口  
 ③岳温泉-一切経山  
 ④岳温泉-沼尻登山口

荷物配送

- ①岳温泉-沼尻・中ノ沢温泉  
 ②岳温泉-土湯温泉郷

車両配送

- ①奥岳登山口-沼尻登山口



③人材×ネットワーク×保全の循環

長く関わり地域愛着を生み出す人材育成の設計

【課題】 自然を活用し人が来るようになると、自然へのインパクトは増える

登山道整備・保全の担い手不足  
行政・事業者・ガイド間で保全認識に差がある。ガイド個人育成だけでは持続性に限界



【転換】

ガイドを育てる → 守る仲間を増やす

登山道整備体験のサポートリーダー育成を目指した

【取り組み①】

登山道整備育成（民間レンジャー型）  
レースボランティアの整備参加増加  
活動参加 → 保全参加への循環形成



【取り組み②】

Leave No Trace (LNT)地域展開  
LNT = 国際的な自然行動倫理（7原則）  
対象を行政・受入団体へ拡大

地域事業者の意識合わせ・視点合わせを目指した

成果 活用する人と守る人を分けず地域全体で保全を支える構造へ

## ■ 取り組みの成果（定量的なアウトプット）

- ① 山旅設定：16プログラムー参加者数：229名
- ② 宿泊を伴う来訪実績：517人泊  
※再来訪者分を含む)
- ③ レンジャー育成：25名LNTインストラクター：10名
- ④ 関係事業者参画：17社
- ⑤ 期間中2回以上の来訪者：102名（再訪率40%）

## 最大の成果 | 変化

保全参加者がリーダーへ  
セルフハイカーが他の仲間を連れて  
再訪と再チャレンジ  
来訪者のSNSや口コミから新規来訪  
活用⇔保全の循環形成  
▶ 「お客様」から「通いの仲間」へ

## ■ セルフハイカー来訪成果

目標 10名 → 実績 17名（170%達成）  
延べ滞在 28日／延べ宿泊 31泊  
複数回訪問・仲間を伴う再訪を確認

### 【特徴】

平均3泊4日の縦走  
岳温泉をゴール兼拠点として利用  
前泊・後泊の増加  
ツアーに依存しない自発的来訪

## ■ 全体成果と今後

再訪率 40%（目標45%）  
複数回来訪者を確認  
ツアー＋保全参加者が増加  
ボランティア層の再訪率が高い

▶ 「消費者」から「仲間」への転換が始動  
観光から、関わり続ける地域づくりへ。

観光から、関わり続ける地域へ。

地域名 千葉県 南房総市（岩井地区）・鋸南町  
事業者名 BOSO WEST COAST協議会



# 房総西海岸を「挑戦の聖地」へ



第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

**房総西海岸プロジェクトは、  
千葉房総・内房のユニークな事業者を  
市町村を超えてつなぎ  
新たな観光経済圏をつくる取り組みです。**  
a new hometown



① ビーチ&プールクラブで認知度向上



海の家→「Beach Club」イベント

② ローカルビジネスの仲間づくり



東京から  
車で80分

1  
2





勉強会



資源視察



スナック



DIY



施設視察



外で朝食



サーフィン



ヤギ散歩



ピザ焼き

● 認知度が低い中、地上戦と空中戦で集客を工夫

① ビーチ & プールクラブ



ターゲット

- クリエーター、経営者、ブランド

集客方法：地上戦

- 2～3人（経営、営業）が、アメリカンクラブや白馬・ニセコのイベントに出向き、1ドリンク付きのショップカードを配布しInstagramサイト共有

② ローカルビジネス



ターゲット

- ローカルビジネスに関心がある誰か

集客方法：空中戦

- 会長知名度を活かし、「ローカル・地域」をキーワードに、渋谷+オンラインで集客PRイベントを複数開催。
- 様々な属性から手探りで集客。

# ●忘れられないうちに、また来てもらう工夫

## ① ビーチ & プールクラブ

### オフシーズンイベント

- B P Cで水温40°CのWinterEscapeを展開
- 「この場所・雰囲気」好きのリピート促進

### ローカル向けイベント

- 「敷居が高い」と感じていた地域客の理解
- その後、旧中学校跡地で「同窓会」開催
- 平日稼働率向上、地域雇用貢献への期待



### ・ 参加者の熱量・自然なつながり

- 30名参加（多世代・多様な属性）。2連続参加のリピーターも獲得。
- アンケートからも満足度93%が満足(残りはやや満足)

### ・ コミュニティ形成と実利

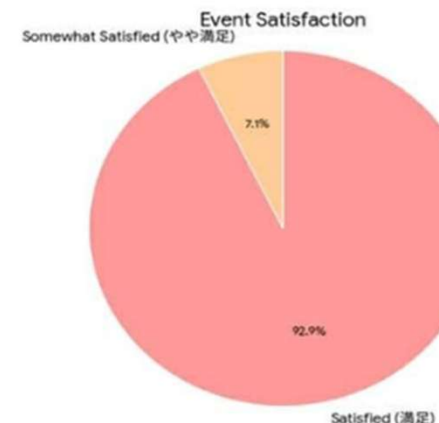
- DIY講師との協業開始、大企業との地域創生PJ始動。
- 「YANE TATEYAMA」企業研修の成約。
- 宿泊利用（プールクラブ）や琴平イベントへの同行。

### ・ 移住への兆し

- 移住検討者が出現。継続的な関係構築へ。

### ・ 集客の展望

インスタ広告(少額)から2名獲得。今後はPR活動を重ねオーガニックのリーチを



## 取り組みの成果

### (定量的なアウトプット)

#### ●延べ参加者数

目標528人：実績647人  
(123%)

#### ●地域消費額

目標10,240,000円  
実績9,496,000円 (93%)

#### ●ローカルビジネス検討者数

目標3人  
実績6人(個人3、事業者3)  
(200%)

## 取り組みの成果と課題

### (定性的なアウトプット)

- 「ビーチ&プールクラブ」により洗練された観光地の認知度が向上し、近隣の土産物店や飲食店への立ち寄り増加に貢献。
- 「ビジネスキャンプ」では、地域事業者と参加者の関係が深まり次の来訪に繋がる、自然発生的な動きが見られた。主催側とともに琴平訪問など、参加者との交流深化が生まれた。
- ビーチ&プールクラブは、この雰囲気ですごす時間が好きな「**場のファン**」がリピート。ビジネスキャンプは、この「**人や地域資源ファン**」がリピート。
- 引き続き、**認知度向上と関係深化の2本柱**で適切な来訪強化を図る。

BOSO WEST COAST協議会

知る・つながる・描く  
～房総西海岸の可能性を広げる対話ワークショップ～

# 何度も通う・帰ってきたくなる房総西海岸

① 広域連携DMO  
情報発信の体制



② 旅人の足を守る



③ 手仕事の交流拠点  
〈何回も交流するチャンス〉



④ 「道」としての体験



⑤ 「人に会いに来る場所」づくり



地域のつなぎ役



農業



手仕事の担い手

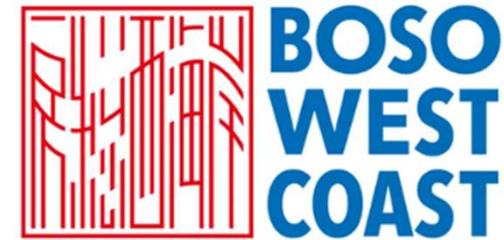


サーファー



空き家活用

## 房総西海岸(BWC)を「挑戦の聖地」へ



- 二次交通
- 広域DMOによる情報発信
- B2C、B2B、インバウンド
- ツアー造成
  
- 金融行政連携「ローカルビジネス実装支援パッケージ」提供
- テーマ別専門メンターとの共創



- 関係住民の日常化  
年間500名のビジネス層が「仕事を持って帰省する」
- 遊休資産利活用の先進モデル地域へ
- 内発的発展の循環  
新しいことに挑戦しやすい空気に満ちた持続可能な地域社会

地域名 富山県南砺市  
事業者名 一般社団法人ジソウラボ

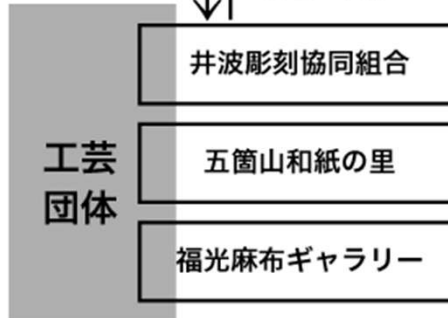
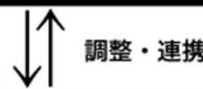
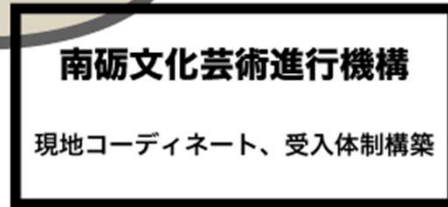
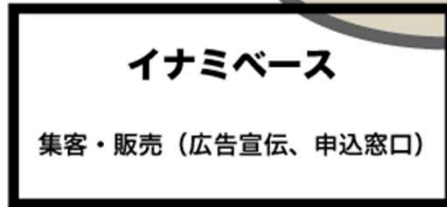
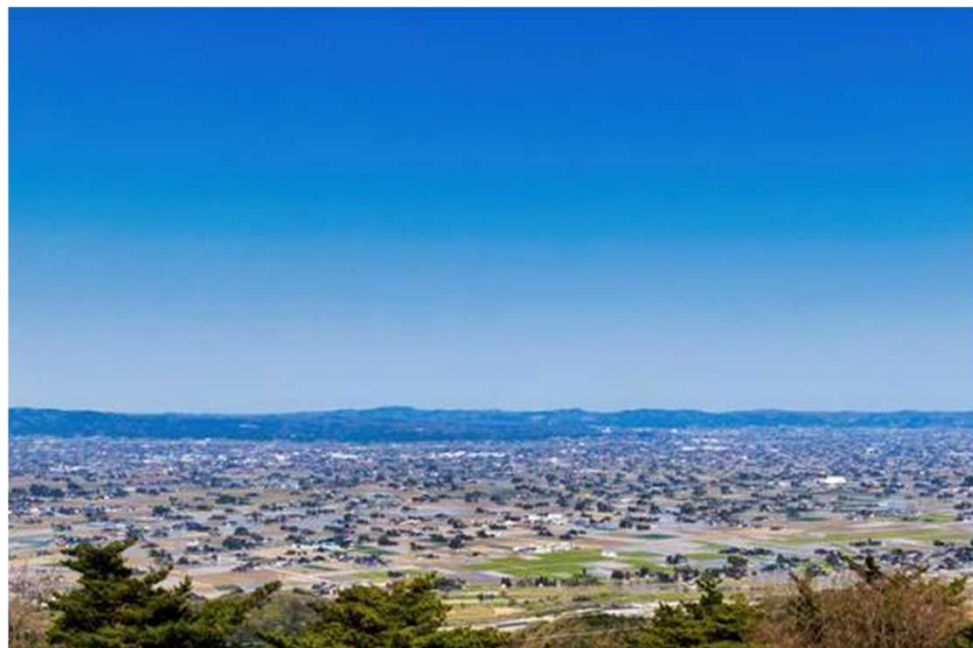


# 南砺の伝統・文化に触れ 「土徳」を体感する旅

**ジソウラボ**  
JISO LABO



第2のふるさと  
A NEW HOMETOWN



南砺市は、富山県南西部に位置し、四季折々の豊かな自然に恵まれ、日本の原風景と、古き良き日本の伝統文化・手仕事の文化が今に色濃く残っている場所です。（散居村、合掌造り）

冬は雪深く、春先の強風、かつては川の氾濫などが頻繁に起きたことから、自然の厳しさの中で民衆が協力しながら暮らしてきた歴史があります。この地域の営みや風土に感銘を受けた、民藝運動の創始者である柳宗悦はその精神性を「土徳」と名付けました。

プロジェクトを円滑に進める体制構築



- ・井波彫刻コース
- ・五箇山和紙コース
- ・福光麻布コース

30,000円（体験料のみ）

4回の通年プログラム

第1回 9/13-9/14

第2回 10/11-10/12

第3回 11/8-11/9

第4回 12/13-12/14

※夏季コース（学生向）

※3つのコースの共通プログラムとして南砺市内の既存の行事への参加を企画し、参加者交流と、それぞれの要素から「土徳」を感じることが出来る設計とした。

- 第1回【民藝】「りんどう忌」 at 光徳寺
- 第2回【お祭り】「南砺獅子舞共演会」 at 城端別院善徳寺
- 第3回【食】収穫感謝祭の「土徳祭り」 at 城端別院善徳寺
- 第4回「お裾分け会」 at 城端別院善徳寺

参加回		夏季集中	第1回/9月	第2回/10月	第3回/11月	第4回/12月	単発/1月	回外回数	
通年プログラム	井波彫刻コース		2	1	2	1		2	
	五箇山和紙コース		2	2	2	2			
	福光麻布コース		3	3	2	2		2	
夏季集中	彫刻コース	2							
	糸文化コース	7							
トライアル	ショートコース						7		
小計		9	7	6	6	5	7	4	
合計									44

通年プログラム参加者／富山3名、東京2名、石川・兵庫1名 ※内学生1名  
 夏季集中参加者／京都1名（学生）、大阪1名（社会人）、金沢美大7名  
 ショートコース参加者／東京2名、新潟2名※親子参加、富山・石川・静岡各1名

当初設定した目標値には届かなかったが、現地でオペレーションしたメンバーや参加者からは多すぎても交流が深まらないので人数としては適正だったのではないかという意見があった。

通年プログラムで参加できない日程があった参加者も日を改めて自発的に来訪するなど、参加者の熱量は高かった。

なおショートコース参加者のうち1名は前年度の参加者がおり、継続的な来訪に繋がっている。





通年コース参加者アンケート						
		5:とても満足	4:満足	3:どちらでもない	2:不満	1:とても不満
全体満足度	井波彫刻コース	17%	83%	0%	0%	0%
	福光麻布コース	18%	55%	27%	0%	0%
	五箇山和紙コース	100%	0%	0%	0%	0%
伝統工芸体験	井波彫刻コース	0%	100%	0%	0%	0%
	福光麻布コース	20%	60%	20%	0%	0%
	五箇山和紙コース	75%	25%	0%	0%	0%
夏季集中コース参加者アンケート						
全体満足度	井波彫刻コース	50%	0%	50%	0%	0%
	糸文化コース	66.70%	33.30%	0%	0%	0%
伝統工芸体験	井波彫刻コース	50%	50%	0%	0%	0%
	糸文化コース	66.70%	33.30%	0%	0%	0%
ショートコース参加者アンケート						
全体満足度		90%	10%	0%	0%	0%
費用感について		5:価格以上	4:価格と同等	3:どちらでもない	2:やや高い	1:高い
参加費の妥当性		60%	40%	0%	0%	0%
再来訪について		はい	いいえ			
今後も体験やツアー情報を送って良いか		100%	0%			
友人や家族にも勧められるか		100%	0%			

### 〈プログラム〉

手仕事を体験しながら地域の行事に参加することで地域性や、背景にある精神性を感じることができたと考える。交流の深化を図ることが来訪につながる。  
ショートツアーを設けることで次年度へのトライアルや、これまでの参加者の再来訪につながる機会創出に手応えを感じた。

### 〈受入体制〉

市内の各地域・団体の連携から地域内交流も深まり、自分達の活動へ糧となった。連携や体制面でまだまだブラッシュアップできる余地がある。

### 〈課題〉

実証事例として前年度の方が参加者同士の交流の深度があったように感じたが、理由として、前年度は全5回で参加者のブレストの回を中盤の3回目に企画したこと、また、今年度はそれぞれ手仕事への興味が高かったことなどが考察できる。  
今後はさらなる地域との交流を生み出す取り組みを実施して、反応検証してみたい。

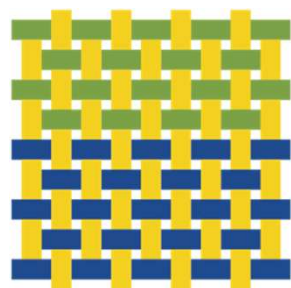
### 〈今後〉

これまで出会った人たちとの繋がりも継続しており、今後も楽しみである。また新たな挑戦として、南砺市とゆかりのある企業にも声をかけてみたい。

地域名 石川県七尾市  
事業者名 能登DMC合同会社



# のと物語 共に紡ぐ復興のストーリー



能登DMC  
NOTO DMC LLC.

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

## 現状

2024年元日の地震により甚大な被害を受け、**奥能登の人口約10%が流出**  
復興の担い手が不足している



## 課題

単発の訪問やボランティアで終わってしまうケースが多く  
「訪れる理由」と  
「関わり続ける仕組み」が不足している



## 目指す姿

関係人口の拡充  
都市と地域をつなぐ中間支援体制の構築



## アプローチ



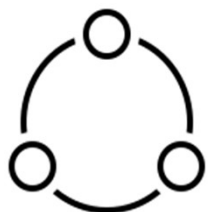
「のと100」プロジェクトを拡張し  
生産者との協業による持続可能なモデルを策定

## ターゲット



20～50代の都市部在住者  
社会課題に関心を持ち、自ら行動したい層

## 仕組みづくり



「旅マエ・旅ナカ・旅アト」の  
各段階に応じた交流・支援の仕組み  
(LINE、オンラインコミュニティ等) を構築

**能登DMC合同会社**  
実施主体・全体取りまとめ  
コンテンツ造成

**株式会社御祓川**  
体験コンテンツ造成

**一般社団法人  
能登半島広域観光協会**  
Web, Instagramでの  
情報発信

**七尾市企画振興部  
企画政策課**  
ふるさと納税との連携  
七尾ファンクラブとの連携

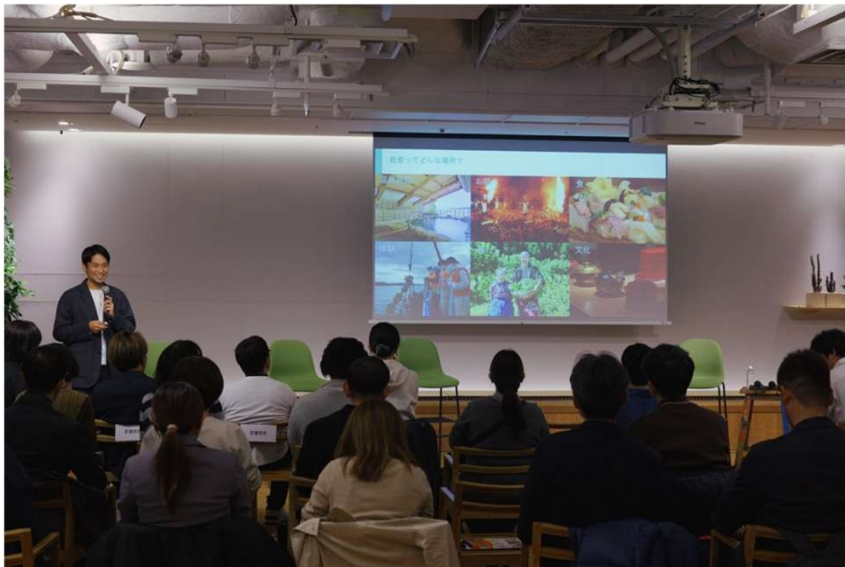
能登

**株式会社丹青社**  
東京側事務局  
企画ディレクション

**株式会社 花咲爺さんズ**  
イベント企画  
プロモーション

東京

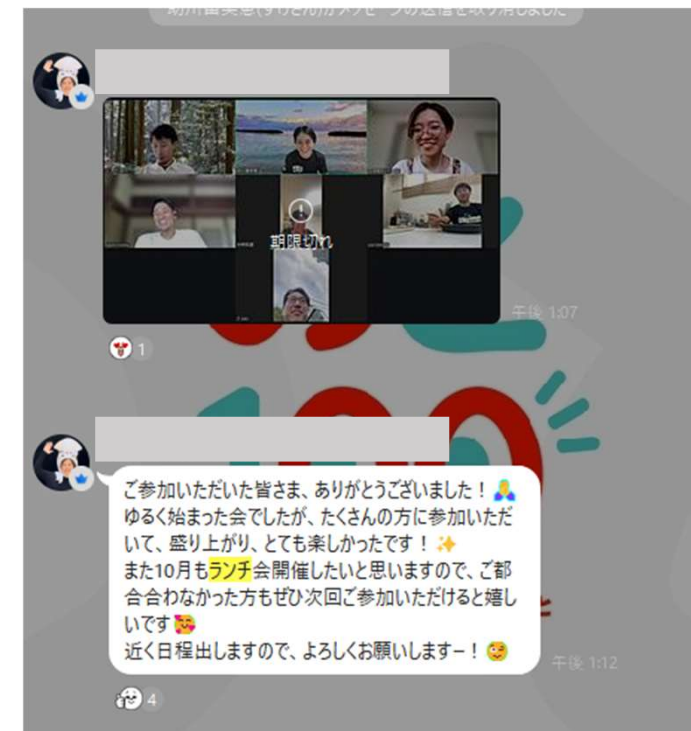
## 東京でのMeet Up開催（8月、11月）



のと物語ツアー（3回）とオーダーメイドツアー



# LINEオープンチャットによるコミュニティ運営



## 定性的成果

- 「対個人」から「対企業」への展開可能性を確認
- 受け皿となる事業者と関心層を直接つなぐことができた
- 被災地の現状を共有し、共に未来を考える「復興のストーリー」への共感が得られた

## 課題：

- 地域内での受入体制（コンシェルジュ機能）の更なる強化
- 関係継続のためのコミュニティ運営

定量的成果

- プログラム、ツアー参加者: 4 回計49名
- Meet Up参加者: 2 回計56名
- LINEオープンチャットの参加者:76名
- オンラインランチ会開催:計 4 名

指標	目標	実績
再来訪率		33% → 69%
地域消費額（総額）	1,200,000円	1,494,305円
産品購入単価（継続）	5,000円	14,375円
継続関与意欲者	50人	76人
体験終了後のNPS	+ 40以上	+ 69.2

**目標を大幅に上回る再来訪率（69%）と高いNPS（+69.2）を達成**

最大の要因は、単なる観光体験にとどまらず、地域の生産者（能登新鮮組や山口水産など）と直接対話し、作業を手伝う「**共創的な関わりしろ**」を提供したことにあります。

アンケートでは「地域の人との交流」の満足度が極めて高く、**参加者が「客」ではなく「仲間」として受け入れられたと感じた**ことが、継続的な関係性と高い再訪意欲を生み出しました。

## 課題

集客プロモーションに  
向けて適切な  
リードタイムの確保

再訪動機となり得る  
地域資源の  
継続的な提供と磨き上げ

マッチング後の  
事業化ハードル

地域側の受入体制と  
来訪者の興味関心の  
バランス

滞在先の確保  
移動手段の確保

地域住民との交流  
不特定多数ではなく  
意味ある関係性

## 今後の展開

本年度の実証結果を踏まえ、**単なる観光・体験から、「地域課題解決・共創型プロジェクト」の実装**へとフェーズを移行します。

- **企業・都市部人材との共創プロジェクトの実装（「共につくる」段階へ）**  
本年度のMeet Up等で生まれた「ITによる漁場管理」「規格外野菜の加工・販路開拓」等のアイデアを具現化するため、プロボノや副業人材が継続的に関われるプロジェクト組成を行います。
- **企業研修・越境学習プログラムの本格展開**  
科研費ツアー（大学・企業連携）の実績をモデルケースとし、都市部企業の研修ニーズ（越境学習、チームビルディング）と地域の労働力不足（農繁期の手伝い等）をマッチングさせる「課題解決型プログラム」を商品化します。

地域名 石川県珠洲市  
事業者名 珠洲市役所 観光交流課

# 復興関係人口による “心の絆”で繋がる第2のふるさとづくり



第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

下記、3つのプロジェクトを実施いたしました。

## 農村魅力発信プロジェクト

珠洲市で高齢化が進む集落での農業や里山の暮らしに触れながら、**地域資源を活かした商品開発や企業を巻き込んだワークショップ等**を開催した。



## 観光拠点再生プロジェクト

道の駅「すずなり」の売り場や案内機能の改善、新たな**観光導線の設計、商品開発、情報発信等**を現場と協働で企画し実装した。



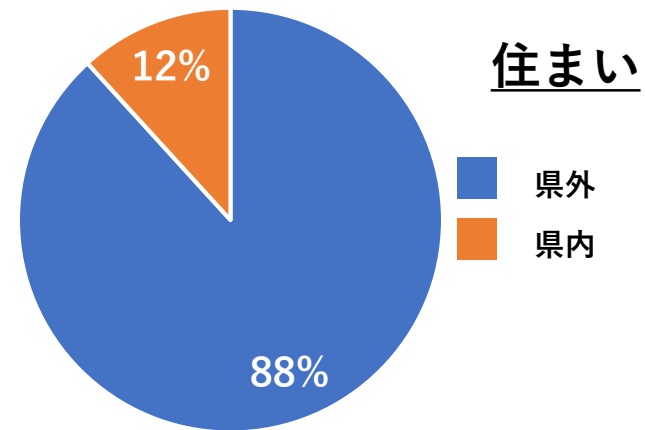
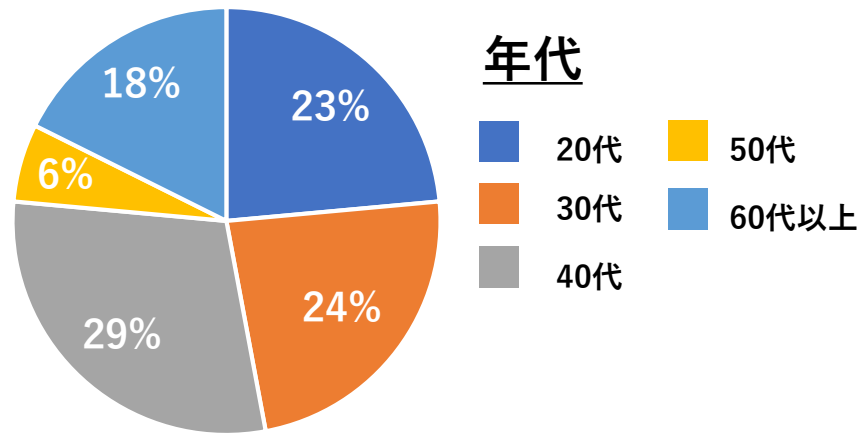
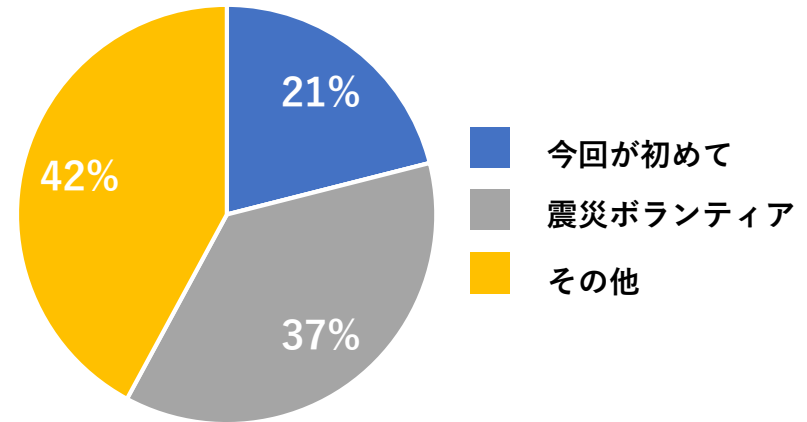
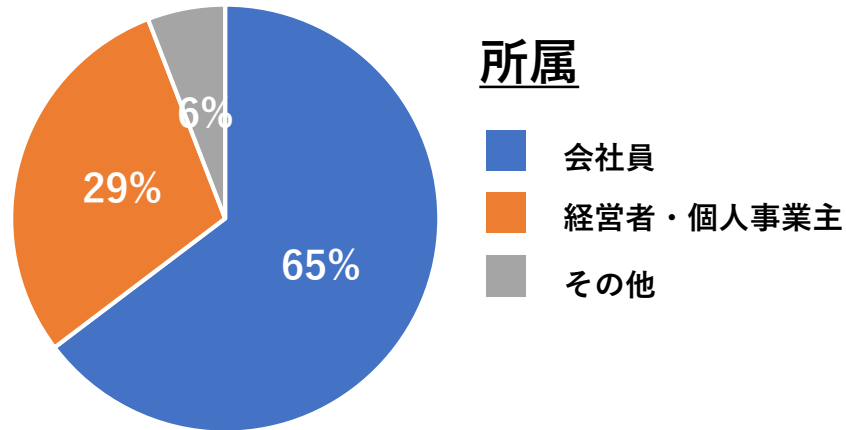
## 珠洲神社支援プロジェクト

能登半島の最先端に位置する須須神社のブランディング化を目的として**WEBサイト制作**を現場と協働で実装した。



**18名が参加し、計20回以上、述べ59名の訪問、計16回のオンラインMTGを実施**

計、18名に参加いただきました。



男性8割、女性2割の参加

県外：東京・長野・愛知・香川  
県内：珠洲市、金沢市



- ✓ 地震で破損した箇所の再生や旧のと鉄道線路部分の除草を実施し、景観保全と休憩スペースを設置
- ✓ 情報掲示（チラシ等）の集約や観光案内所に置いてあったモニターを復旧させ、公式SNSや緊急情報を常時発信できる動画制作と運営マニュアルの整備を行うことで業務効率化の実現
- ✓ 珠洲特産「えびすカボチャ」を活用したソフトクリームの開発において、作成・清掃時間を大幅に短縮（約20分削減）する新方式の導入や、ソフトクリームのミックス比率向上と単価アップにより、約1.3%の売上増の見込みへと繋がる



景観保全の様子



除草作業の様子



商品開発の様子

- ✓ 課題が山積みであった震災後の現状をヒアリングし、課題の優先順位を整理し、1～3年目までのステップを明確化しロードマップを作成
- ✓ 今後のブランディングとファン化の拠点として、公式WEBサイトの構築を提案し、歴史やストーリーの再構築を行い、ディレクションから実装までを支援（WEBサイトは作成中）
- ✓ 参拝客の増加に加え、授与品の拡充やエリア美化への投資を通じて、持続可能な神社経営のプロセスを定義



須須神社の見学の様子



須須神社の郡司さんとのディスカッションの様子



参加者交流の様子

## 1. 参加者の「自分事化」を促す環境設計

- ✓ 参加者の属性やスキルに応じた役割付与と運営
- ✓ 参加者に一任し、当事者意識（オーナーシップ）を醸成することで自走的な関わりを確立

## 2. コーディネーターの負担軽減と「役割分散」

- ✓ 案内・調整ノウハウを形式知化し、特定個人への負担を集中させない脱俗人化。
- ✓ 今年度参加者がコーディネーターとなり次なる参加者を支える「自走型コミュニティ」へ

## 3. 滞在施設不足の解消と「共創型」拠点整備

- ✓ コワーキングの宿泊化やトレーラーハウス導入など、機動的に確保。
- ✓ インフラを外部人材と共に創るプロセスで、地域への愛着を深化。

## 4. 「自走化」に向けた挑戦と課題

- ✓ 第2のふるさと会員制度や、プロジェクトの有償化などの検討
- ✓ 一時的なイベントで終わらせないための「経済的自立」と「組織基盤の強化」が課題

地域名 長野県生坂村  
事業者名 生坂村観光協会



# 旅するいきもの大学校！第二期



第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

生坂村『創造の森』イメージ図

遊ぶように暮らそう！

# いくさか『創造の森』プロジェクト

ここ生坂村『創造の森』はエコロジカルなライフスタイルを実践し、提唱する場。そして地域住民が自由に入出りできる『地域の縁側』。ここにはさまざまな手仕事があります。さまざまな手仕事はコミュニティを円滑にし、遊ぶように仕事をするを可能とします。持続可能な村。それはあなたと家族、あなたの愛する人すべてが続く未来であります。遊ぶように暮らそうここ生坂村で。



脱炭素の象徴の場

里地里山の回復

伝統文化と最新技術の融合

未来を担う地域の子どもたちが主役

災害に強い自給自足型のコミュニティ

## 「自然共生サイト」認定を目指し活動する

生坂村は令和4年6月26日に『生坂村ゼロカーボンシティ宣言』を行い、令和5年4月28日に環境省 脱炭素先行地域に採択されました。いくさか『創造の森』は脱炭素の取組みに関する啓発活動、及び生坂村の魅力を発信する生坂村の脱炭素を象徴するコミュニティの場です。

生坂の豊かな自然を通じて村内外の人々と農業体験をはじめとした体験プログラムを行うことで、すべての世代が有機的につながる持続可能なコミュニティの創出を目指します。

令和6年度には観光庁 第2のふるさとづくりプロジェクトのモデル実証事業の採択を受け新たなツーリズム開発としてリジェネラティブツーリズム「旅するいきもの大学校！」を実施し観光庁「第2回サステナブルな旅アワード」の特別賞をまたJATA SDGsアワード 環境部門 優秀賞のW受賞をしました。

2024年より開始された長野県生坂村を舞台に企業連携による再生型観光

## いくさか『創造の森』リジェネラティブ・ツーリズム第2期

テーマは「地域と旅人が協働で未来をつくる<リジェネラティブDAO>」

W受賞の実績を持つこのプロジェクトが、ネイチャーポジティブと地域コミュニティの融合に挑む第二章へ。地域や企業、そしてあなたと共に“育てる旅”が始まります。自然と共に生き、地域課題をみんなで解決するリジェネラティブ・ツーリズム。昨年度は生物多様性や森林整備に取り組み、今年は一歩先へー全6回のツアープログラムを通じて地域と旅人が協働で未来をつくる「リジェネラティブDAO（分散型自律コミュニティ）構想」に挑戦しました。この取り組みは、生坂村観光協会、クラブツーリズム、株式会社フューチャーセッションズ、合同会社HiTTiSYO、株式会社アスエク、株式会社レシカの6つの企業がコンソーシアム形式で協力して進めています。それぞれの企業が持つ専門性とネットワークを活かし、多角的な視点からプロジェクトを支援します。



約半年間、全6回にわたるツアーを開催。ツアーでは地域課題である放置竹林の間伐や自然保護活動を体験しながら、地域住民との交流、オンラインでの座学などを通じてネイチャーポジティブに資する活動を学ぶ。参加者はツアー終了後、「生坂村公式自然研究員(ネイチャーフェロー)」に認定され、ツアー後も地域との関わりを続けている。

## 1. 生坂村公式自然研究員

全6回で開催されるツアー終了後には、参加者を「生坂村公式自然研究員（ネイチャーフェロー）」として認定し、彼らが地域の自然保護活動に積極的に参加することを奨励。

## 3. 多様な体験の提供

生き物の生態や自然の知識を学ぶだけでなく土中環境改善のアプローチ、自然フィールドと心身の関係を薬膳学から学ぶアプローチなど、「いきもの大学校」というネーミングやブランドコンセプトを活かして、よりアカデミックで多様な実践プログラムを用意した。

## 2. 地域との交流

各回のツアープログラムに地元ゲストを招き、トークディスカッションを行った。村内の方々との交流を通じて、地域の文化や課題について理解を深める機会が設けられている。

## 4. 専門家によるガイダンス

立教大学 スポーツウエルネス学部・スポーツウエルネス学科の奇二正彦准教授を生物多様性のメイン講師に迎える他、大地の再生にはWAKUWORKS・和久氏を、薬膳学には中村氏を招き、専門講師を増員。学術的な裏付けのある内容が提供された。

第0回:7月31日 (木) 20:00~21:00

場所:Venture Café CIC Tokyo 虎ノ門ヒルズビジネスタワー 15階

登壇:株式会社レシカ クリス・ダイ/クラブツーリズム株式会社 鈴木光希/合同会社HiTTiSYO 星野亜紀子

有識者:株式会社アスエク 市川隆志

ファシリテーション:株式会社フューチャーセッションズ  
<地域コミュニティ×DAOとは?-DAO組成による地域活性化の可能性を探る->

地域活性化を促進するためには、

- ①産業および雇用の創出による持続可能な資本形成・経済基盤の確立、交流人口(観光のみ)の増加だけではなく、
- ②地域発展を一緒に目指す関係人口を増やしていくことが求められる。

地方創生に向けては、「観光業」を強化することが地域課題を解決するカギとなる。

脱炭素先行地域に採択された人口1,600人の村が取り組む<リジェネラティブDAO>とは?

地域コミュニティ・いくさか『創造の森』の運営者よりネイチャーポジティブに資するプロジェクト提案。

その後、参加者を募集。参加者多数の場合は先着順ないしは面談を行い参加者決定。



①第1回：9月4日・5日（土）～（日）1泊2日（現地開催）

Day1<里地里山のネイチャーポジティブと薬膳学から学ぶ養生>

1日目 集合：やまなみ荘（12時00分）

オリエンテーション：いくさか『創造の森』について（地域コミュニティ運営者）

昼食：やまなみ荘（弁当）

講座：ネイチャーポジティブとは

講師：立教大学准教授・奇二正彦氏

対話：翌日のフィールドワークを参加者と対話をしながら活動内容を決定

ファシリテーション：株式会社フューチャーセッションズ

講座：薬膳学から自身を知るワーク

講師：中村飛鳥氏

懇親会：いくさか『創造の森』でBBQ

Day2<村内周遊ツアー>と<ネイチャーポジティブフィールドワーク>

2日目

朝食：やまなみ荘（朝食7時30分）

午前中：村内周遊ツアー（村内の主要な観光名所訪問＋歴史探訪＋ぶどう狩り）

昼食：自由～移動～『創造の森』

午後：フィールドワーク-生物多様性に資する活動-（『創造の森』）

講師：奇二正彦氏

振り返り：株式会社フューチャーセッションズ

解散：17時



## 第二期 第1回目のツアープログラムを開催しました！

9月4日・5日と1泊2日で「旅するいきもの大学校！」の第1回目が行われました。いくさか『創造の森』の持続性を探究するというミッションも加わり、最年少は16歳、最年長は60歳というバックグラウンドが異なるメンバーが新たに加わり、自然と共生しながら地域内外のコミュニティとしての成熟を目指しプロジェクトが発進。「生坂村公式自然研究員」である第一期生も多く加わってのツアーとなりました。「リジェネ旅」を主宰する株式会社アスエク・市川氏よりツアーの感想をいただいたのでご紹介します。



### 株式会社アスエク 代表取締役社長 市川隆志氏

第二期「旅するいきもの大学校！」のキックオフに参加してきました。日本に数多く残る、「風の谷」の村でこのプロジェクトに取り組む意義を、現場で強く実感。生坂村は、犀川が谷を刻む里山の村。峡谷「山清路」や京ヶ倉の岩峰が美しく、昼夜の寒暖差を活かしたブドウ栽培が盛んです。道の駅「いくさかの郷」では、開店前からブドウ直売に長い列ができるほど。パラグライダーの名所、灰焼きおやき、平飼いの純国産鶏の養鶏場など、移住者の挑戦と地域の伝統が交差する場所でもあります。「消費する観光」ではなく、長野ならではの地形や文化が息づく里山

を体験できるエリアです。いくさか『創造の森』は日本の里山システムが抱える課題に向き合い、脱炭素やネイチャーポジティブの視点を取り入れながら、高齢化・人口減少の只中で里山を「21世紀型に再生・発展」させるプロジェクトです。キックオフ当日は、環境教育の奇二先生と動植物データを収集。薬膳研究家・中村さんからは、薬膳を通じて「自分をととのえる」ヒントを学びました。自然の中の学びは、理屈だけでなく身体感覚で「自分も自然の一部だ」と思い出させてくれます。準絶滅危惧のアカハラヤモリにも遭遇。嬉しい出会いでした。熊のお肉は初めて食べましたが美味でした。里山の再生や、暮らしと自然の関係をアップデートする取り組みに興味のある方は、ぜひご連絡ください。一緒に行きましょう。



足繁く生坂に通ってくださる奇二先生



まずは双眼鏡で鳥の観察



なんと『創造の森』にアカハラヤモリ



薬膳学の講師・中村飛鳥先生



ビーハスにドロバチの巣を発見



最高齢は60歳の自給農で暮らす男性。なんと兵庫県からご参加！



最年少は16歳の高校生が静岡県から！



野菜を中心に夜のBBQ大会を！ 熊肉や熊の骨も焼きました

## 第1回目



夜の語らいで熱い談義が沸き起こりました



第二回目からの参加者も多いのですが半年間よろしくお願ひします！



木曾の猟師さんからいただいた熊の骨を頬張る星野

生物多様性の学びだけではなく、土中の環境も、自分自身の内観もと、プログラム造りに注力した第二期。夜の「対話」ではみんながやりたいプロジェクトについて、話し合いをしたのですが昨年度と全然違う意見が出てきました。「自分たちがやりたいことではなく、ここに古くから暮らす人々の話しが聞きたい。」「その方達が必要だと思うことを取り入れるべきでは？」とツアーをただ楽しむだけではなく、生坂村に寄り添ってくださる気持ちが同えて、村のガイドを始め、事務局は非常に心を打たれました。これからこの地で何を生み出せるのか、楽しみにしててください。

②第2回：11月1日・2日（土）～（日）1泊2日（現地開催）

## Day1 < 里地里山の大地の再生 >

1日目 集合：やまなみ荘（12時00分）

講座：大地の再生 講師：和久倫也氏

ゲスト：建築家・遠野未来氏

対話：午後のフィールドワークを参加者と対話をしながら活動内容を決定

ファシリテーション：株式会社フューチャーセッションズ

移動～昼食：『創造の森』（弁当）

フィールドワーク：フィールドワーク-大地の再生-（『創造の森』）

講師：和久倫也氏

夕食：やまなみ荘（地元住民と懇親会）

アイスブレイク：薬膳学から自身の状態に合わせたティーブレンド 講師：中村飛鳥氏

## Day2 < 里地里山の大地の再生 / 『創造の森』のルールメイク >

2日目

朝食：やまなみ荘（7時30分）

午前中：フィールドワーク-大地の再生-（『創造の森』） 講師：和久倫也氏

昼食：『創造の森』（弁当）

午後：フィールドワーク-大地の再生-（『創造の森』） 講師：和久倫也氏

『創造の森』のルールメイク

講師：星野亜紀子氏

ファシリテーション：株式会社フューチャーセッションズ

解散：17時



## 第二期 第2回目のツアープログラムを終えました！

11月1日・2日と1泊2日で「旅するいきもの大学校！」の第2回目が行われました。観光庁から5名のゲストが加わり、総勢32名が生坂村に集結しました。子どもが走り回り、参加者のワンちゃんが活動を見守る里山の秋の風景はのどかで心温まるものでした。第1回目の「対話」で生まれた「ここに古くから暮らす人々の話が聞きたい。」というリクエストに応え、大日向の竹内清枝さんがゲストとして『創造の森』の夕食会に遊びにいらしてくださいました。竹内さんは「この村が大好きで、一歩も外に出たくないくらい！」と自身の半生についてのお話や村で行なっている活動についてご紹介くださいました。地域の人々が協力して行う活動を「おてんま」と呼び「おてんまの後のお茶のみが楽しくってね。」と地域の特色について教えてくださいました。

竹内さんの語らいに耳を澄ませた参加者。参加者からの質問も多く、その中でも村の他の方々が「旅するいきもの大学校！」の取組みについてや、その意味合い・内容について知ってもらえるかが気になるという声も。企画者からは率直に、理解していただくまでに至っていないと伝えると、次の二つの新たな提案をもらいました。

- ①一つ目は、村の方々に先生役になっていただき、生坂村での活動を教わりたい。
- ②二つ目は、こちらから伺う。地域の行事やおてんまに参加させていただき、色々なアイデアを対話する。

第3回目・最終回に向けては「自律分散型」の社会システムについて学びを深めようと企画していましたが、皆さんの意見を取り入れて方向転換を図ってみたいと思います。観光庁の方々もその意見に賛成してくださいました。竹内さん、手作りのこんにやくと甘柿をいただき、ありがとうございました。大変美味しくみんなでいただきました。



焚き火を囲って竹内さんのお話を伺いました



育児で忙しい最中、ご自慢の美味しい卵でバウンドケーキを焼いてくださいました。



約半日で鬱蒼とした雑木林を整え、土中に空気を通すためのファイヤーピット作りを行いました！



松本のEmmのランチBOXはオーガニックの野菜中心。



和久先生の大地の再生のワークショップは圧巻でした



自分の地方産から薬膳茶をブレンド



あっという間に階段をつくりました



秋晴れの中、まずはチェックイン！



飛鳥先生の陰陽五行の薬膳学が大好評



高校生のゆいき君は村の子供に大人気



『創造の森』の構想を話す星野

土中環境を整える「大地の再生」の学びと実践。自分自身を知る「薬膳学」と生物多様性の観察を中心に、里山に必要な手を入れて再生させる活動一。その全てが見事にシンクロする第2回目でした。額に汗をかき、フィールドを縦横無尽に動き回り活動する参加者の笑顔と真剣な眼差しを前にし、ミクロとマクロの視点で自然観察を中心に「生き方」そのものを幅広い世代で「学び」「実践」し「対話」するこの「旅するいきもの大学校！」が昨年、大きな賞を受賞し、その後多くの企業や教育現場から本取組について『創造の森』の取組みについて教えて欲しいと要請される理由が分かった気がしました。「遊ぶように暮らそう！」の合言葉は始め、理解を得難いようでしたが、若い方々を中心に共感を呼んでいます。これからも活動の幅を広めていきたいと思ひます。スタートはこの地、生坂村からでした。村民の皆様方には感謝申し上げます。

## ③第3回：11月23日（日）19時～20時30分

中間報告：前半戦振り返り&最終発表に向けての共有（オンライン）

プログラム内容：本日の目的と進め方の共有／Day1-4の振り返り／最終発表に向けての説明  
尾井田さん活動計画発表／DAOについてレクチャーと可能性の共有／各自感想共有&質疑応答



### 第二期 第3回目のオンライン会を終えました！

11月23日（日・祝）に第3回目となるオンライン会が開催されました。第一期生の参加もあり、19人でプログラムの後半に向けた振り返り地点の学びとディスカッションが約100分の時間を使って行われました。まずは現地では2回開催された10月と11月の活動内容が共有され、参加者からの意気込みがチャットで共有されました。尾井田さんは『創造の森』の農地開発計画と持続可能なコミュニティ構築について発表し、DAOを運営する本多さんより地域コミュニティ構築と民泊物件運営の具体例が紹介されました。会議では地域のコミュニティ構築と自然保護について議論され、次回の12月の現地開催に向けて協議しました。

尾井田さんの発表は、大豆や小麦の畑、花や薬草のエリア、ワイン用のぶどう畑、木材加工場、薪ステーション、プライベートサウナ、動物の飼育エリア、ピオトープ、年間貸し出し農地、ドッグラン、馬小屋、アスレチック広場などが含まれる希望に満ちた計画でした。いくさか大好き隊の卒業後の緻密な計画となっており、参加者のすべての人たちが応援することを約束しました。今号では村民のみなさんへ薬膳学の講義の内容をご紹介します。

### 第3回目オンライン会の目的

現地開催4日間で体験してきたことを振り返り、後半から最終発表会に向けてどのようなことをやっていくのか、そのイメージをつけること

『創造の森』の管理人・尾井田将年さん（いくさか大好き隊）から未来に実現したいアイデアを共有してもらい、その実現に向けて鍵となるテクノロジー・DAOについて株式会社レシカ・本多さんよりレクチャーをいただきます！

『創造の森』でどのようなワクワクする未来をつかっていけるのか、皆で一緒に考えていきましょう！

### 薬膳学「-自身に合った薬膳茶をブレンドする-」講義まとめ

薬膳は、その視点を「毎日の食事」という具体的な行動に落とし込み、気・血・水のめぐりを整えながら、自分らしいバランスで生きるための実践ツールである。

#### 1.陰陽五行学と薬膳の基本

世界は「陰と陽」の二つの性質から成り立ち、人の身体は「気・血・水」と「五行（木・火・土・金・水）」で捉える。

気=エネルギー、血=栄養とめぐり、水=体の潤い。

これらと五行がスムーズに巡っている状態が「健康」だと考える。

「陰陽五行学 × 食事」が薬膳であり、季節や体質に合わせて食を選ぶことで、自分のバランスを整えていく知恵である。

#### 2.自然・季節と心身のつながり

地球上で生きる以上、私たちは気候や季節から常に影響を受けている。

五行で見ると、冬は「水」の季節。冷えによる下半身の不調や、「恐れ・余計な心配」といった感情が出やすくなると言われる。

赤ちゃんは自然とのチューニングが取れた「ベストバランス」の状態。

大人になるにつれて、自然ではなく大量の情報に合わせて生きようになり、そのバランスが崩れやすくなる。

#### 3.家族・社会と「余白」の大切さ

コミュニティの最小単位は家族。

親は「幸せになってほしい」という思いから、経験にもとづく価値観を至近距離で伝えてくる。

それは愛情でもある一方で、受け手にとっては「うるさい情報」にもなり、自分の感覚やバランスを乱す原因にもなりうる。

陰陽五行学が伝えるのは、「各々が余白（余裕・余力）を持って生きること」。

親や社会と適度な距離を取り、自分のバランスを守ることは、自分に与えられた権利である。

#### 4.現代社会のゆらぎとセルフケアとしての薬膳

戦後の欧米化と情報化により、生活は便利になったが、迷いやストレス、不調（不定愁訴）はむしろ増えている側面がある。

豊かな自然がある長野でも、10代の自殺率が高いという現実があり「環境の豊かさ=心の豊かさ」とは限らないことが示唆される。

#### 陰陽五行学を学ぶことで

・自分の体質や心の傾向を知る

・物事を陰と陽の両面から眺め、中庸に捉える視点（無井別知）を養う



第二期生に加え、第一期生の参加もありました。講師の立教大学・奇二先生、薬膳師・中村先生にもご参加いただき、そもそもエコシステムであるDAOとはどんなことを指すのか、株式会社レシカの本多さんに教えていただきました！

## ④第4回：1泊2日（現地開催）

### Day1 <DAO初期設計>

1日目 集合：やまなみ荘（12時00分）

講座：DAOのルールメイク

講師：株式会社レシカ

ファシリテーション：星野亜紀子（合同会社HiTTiSYO）／株式会社フューチャーセッションズ

村内ゲスト：移住者（村議員／アーティスト）

夕食：ゼロカーボン事務局（地元住民と懇親会）

### Day2 <いくさか『創造の森』ネイチャーポジティブに資するプロジェクト提案>

2日目

朝食：やまなみ荘（朝食7時30分）

午前中：ネイチャーポジティブに資するプロジェクト提案

移動

昼食：『創造の森』（お弁当）

午後：ネイチャーポジティブに資するプロジェクト提案（『創造の森』）

ファシリテーション：星野亜紀子（合同会社HiTTiSYO）／株式会社フューチャーセッションズ

振り返り：株式会社フューチャーセッションズ

解散：17時



## 第二期 第4回目の現地開催を終えました！

12月6日・7日と1泊2日で「旅するいきもの大学校！」の第4回目が行われました。スタッフを含めて21名が参加しました。『創造の森』の管理人・尾井田将年さん（いくさか大好き隊）がリードして、自然栽培を行う畑の冬養生からスタート。数日前は雪もちらつき、とても寒かったですが、天気良く体を動かしていくうちに、参加者の額には汗が見えます。交流会で食べることができそうな野菜を収穫して、夜ご飯の準備です。



夜の交流会は上生坂の民家で行われ、この日はゲストに第一期生でもあり地元ガイドの平田さん（万平）と移住者でもあり画家の進藤さん（小立野）をお招きし、本活動をご説明。その後、参加者と様々な意見交換が行われました。2日目は奇二先生の指導の元、前回設置したトレイルカメラを回収し映し出された雲根に生息する動物たちを確認しました。雲根には野うさぎの巣があります。その他に、鹿の親子や狸など、夜になると野生動物がイキイキと活動している様子が見受けられました。奇二先生の呼びかけで、雲根の最奥地の壊れかけた防獣柵の修繕が行われました。参加者に手伝ってもらい、防獣ネットで応急処置をします。壊れかけた防獣柵を獣が行き来しているのでしょうか、強烈な獣臭がします。域外の参加者が、このような地域のお困りごとに心を傾けてくださり、再生に向けて体を動かして下さる様子を見ていたら、とても胸が熱くなりました。



トレイルカメラを回収



素晴らしい天候に恵まれた！



焚き火を囲って野外座学



お父さんは風邪でダウン！



真藤さんがゲストでした！



民家で信州の野菜や創造の森で採れた野菜 たっぷりのご飯



奇二先生ありがとうございました



2日目はやまなみ荘で座学とディスカッション



## いくさかで自然や人の暮らしがより豊かに続いていくために 2026年『創造の森』で何をする？

### 自然からの恵み

- ・ 村民から農業や文化を聞く
- ・ 雲根地区近隣の生物調査
- ・ 村内の残渣を使った肥料作り
- ・ 創造の森へ上がる道の整備
- ・ 竹細工(茶道具・茶器)
- ・ 村民へ活動レポート公開
- ・ 里山ドラッグストア計画
- ・ 地域内外の自然勉強会
- ・ 環境配慮型農業
- ・ 散策ルートの整備

### 野生・自然のため

- ・ 年間調査
- ・ 池を作る
- ・ アニマルパスウェイ

⑤第5回：12月28日（日）19時～20時30分 オンライン

## <アクションプラン具体化>

ファシリテーション：星野亜紀子（合同会社HiTTiSYO）／株式会社フューチャーセッションズ  
プログラム内容

前半を振り返り、学びを共有し、プログラムで目指す方向性を全員で共に描く

Step1:ここまでの活動を振り返る（イントロダクション／チェックイン／ストーリーテリング）

Step2:自分たちで実践したい活動アイデアを膨らませる（グループ対話／チェックアウト）

The screenshot shows a video player interface. The main content is on a green background with white and yellow text. At the top right, there is a small video thumbnail of a man with the name 'Yuki Sakamoto' below it. The text on the screen reads: 'ここまでの活動を振り返る' (Review the activities up to here), 'チェックイン' (Check-in), '一人ひとり次のことについて共有します。' (We will share about the next steps for each person.), '問い：' (Question:), '年末年始の予定は？' (What are your plans for the New Year's holidays?), and '19:05-19:15 (10 min)'. A large white number '1' is inside a green circle on the right side, with '10 min' written below it. At the bottom, there is a video control bar showing '00:10:00' and a subtitle: 'ちょっとチェックインして、皆さんと一緒にこう進めていくという形を取ればなと思っています。' (I'm thinking of a format where we'll check in a bit and move forward together with everyone.)

## ⑥第6回：1月10日（土）

第2期修了式 & 2026年アクション計画（現地開催・オプションで懇親会付きの1泊2日）

集合：やまなみ荘（12時00分）～移動～『創造の森』

修了式：第2回「生坂村公式自然研究員」修了式典

- ・公式自然研究員任命式（村長による授与）

- ・餅つき交流

- ・旅のつづき：2026年創造の森アクション計画セッション

Step1：参加者の信頼感を高める

イントロダクション／チェックイン

Step2：参加者に自分で決めてもらう

全体対話／グループ対話

Step3：試作（プロトタイプ）してみる

クイックプロトタイピング／チェックアウト

ファシリテーション：合同会社HiTTiSYO／株式会社フューチャーセッションズ



## 今期も無事に全行程を終了しました！

1月10日（土）に「旅するいきもの大学校！」第二期の「生坂村公式自然研究員」認定式が行われました。この日も晴天に恵まれ、風は強かったですが生坂村観光協会の会長でもあられる藤澤村長に認定証をお渡しいただきました。第二期は現地開催に2回以上お越しいただくことが参加条件でした。修了式は体調不良等で欠席だった参加者を含めると、今期は新たに8名の「生坂村公式自然研究員」が誕生しました。今後も生坂村を定期的に訪れいただき、自然観察を中心とした活動や地域住民との交流をしていきます。「旅するいきもの大学校！」は2年目を迎え、約70名の関係人口を創出し、現在もお活発な情報交換等を行っています。

本プロジェクトを第三者視点で株式会社アスエク・市川隆志氏が実績報告を上げてくださり、いくさか『創造の森』にとっても「旅するいきもの大学校！」、村にとっても意義のある報告だったためその一部をご紹介します。

### 本事業の第三者評価・助言報告書より

これまでの「旅するいきもの大学校！」を第三者の視点で振り返ると、村民自身の主体性が十分に発揮されていないことが大きな課題だと感じました。生態系の回復に重点が置かれる一方で、生坂村の自然が、村民の暮らしや文化、食生活とどのようにつながっているのかが見えにくく、自然が再生されることで人がどのような価値を受け取れるのか、という本来深めるべき点まで十分に掘り下げられていなかったように思います。

その一方で、生坂村には、生坂村の自然環境と密接に関わりがある、五社宮の浦安の舞、日置神社の舞台引き、大日向神社の船と舞台引き、集落ごとの獅子舞や百万遍念仏など、貴重な無形民俗文化財が数多く残っていると伺っています。近年、オーバーツーリズムなど観光による新たな社会問題が顕在化する中で、観光の役割そのものが見直され、「地域の無形文化を未来へつなぐために観光を活用する」という考え方が広がっています。

生坂村にとって、『創造の森』は何のために存在する場所なのでしょう。この問いに、地域おこし協力隊や移住者だけでなく、長く生坂村で暮らしてきた村民自身が向き合い、言葉にできるかどうか極めて重要です。時間はかかるかもしれませんが、焦らず、一歩ずつ着実に前進していくことが重要で、これを中長期的に支援するのが村の役割です。

村民の間で『創造の森』の存在意義が十分に共有されていないままでは『創造の森』を事業として成立させることは、非常に困難になる可能性があります。そのためには、村民自身が実際に「創造の森」を訪れ、現地を体感したうえで、住民同士が率直に意見を交わす対話の場を複数回設け、目的や将来像を丁寧にすり合わせていくことが不可欠と思われます。



「生坂村公式自然研究員」が新たに8名誕生しました！おめでとうございます。



多くの学びを得て、交流を深めて生坂村を満喫しました。



参加者全員でパチリ

恒例の餅つきも大盛り上がり

## 再来訪者数

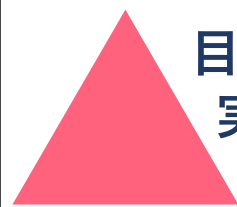
## 消費金額

## 参加満足度・再来訪意向

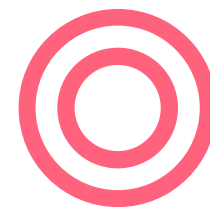
結果



目標値：60名  
実績：62人  
が再来訪



目標値：1,500千円  
実績：1,089千円  
地域内消費額：97千円



参加満足度：93%  
再来訪意向度：93%  
ともに高評価

アンケートおよび自由記述の分析から、再来訪に影響を与えた要因を因子抽出した結果、5つの主要因子が確認された。各因子の出現頻度を整理すると以下の通りである。

因子	内容	該当ケース数	出現率
因子① 関係資本因子	人的ネットワーク・コミュニティ接続	6/8	75%
因子② 心理的定着因子	居場所化・安心感・帰属意識	1/8 (顕在) ※潜在含むと複数	12.5%(顕在)
因子③ 学習深化因子	理解の深化・視座拡張	7/8	87.5%
因子④ 貢献・役割因子	担い手意識・関与余地の認知	5/8	62.5%
因子⑤ 情緒的愛着因子	土地・人・自然への感情的結合	4/8	50%

本事業は、**体験満足型観光モデル**ではなく**学習深化と関係資本蓄積**を軸とする**参加者の担い手化**を促す**関係人口型モデル**として機能していることが確認された。特に、継続参加者4名が全員4/4参加を達成している点は、再来訪動機が内在化・固定化していることを示す明確な行動指標である。

再来訪の決定要因は、観光地としての魅力（景観・施設）よりも、①**人との関係性（関係資本）**と、②**参加する意味の深化（学習・役割・貢献）**にある。

したがって本事業は、体験型観光の枠を超え、参加者を「共創者・担い手候補」として巻き込みながら、再来訪を継続的に生むモデルとして有効に機能している。

再来訪に関するFA分析

いくさか「創造の森」は、単なる観光収益事業ではなく、生坂村の自然・文化・暮らしの価値観を未来へ受け渡すための“地域の基盤（器）”として位置づけるべき事業である。短期的な集客や施設整備を目的化するのではなく、立ち止まりながら成果を検証し、その意味を言語化し続ける姿勢が中長期的成功の鍵となる。

現時点では、「生坂村は何のために観光を行うのか」「創造の森は何のために存在するのか」という根本目的が村全体で十分に共有されているとは言い難い。目的が経済効果最大化であるならば、ハコモノ整備や大規模マーケティングも選択肢となるが、今日においては施設整備のみで持続的集客を実現することは困難である。

一方、持続可能な地域づくりを目的とするのであれば、現在の開発中心型アプローチは再検討の余地がある。これまでの取組では、生態系回復という軸は明確であったものの、それが村民の暮らし・文化・食・無形民俗文化財とどのようにつながるのかという文脈が十分に可視化されていなかった点が課題である。

特に重要なのは、村民自身の主体性の発揮である。創造の森の存在意義が村民間で共有されないままでは、事業としての持続性は確保し難い。外部人材や移住者だけでなく、長年暮らしてきた村民自身がこの問いに向き合い、言葉にし、合意形成を図るプロセスが不可欠である。今後は、村民が現地を体感し、率直に意見を交わす対話の場を継続的に設け、目的と将来像を段階的にすり合わせていくことが望ましい。創造の森を地域内で“自分たちの場”として再定義できるかどうか、事業の成否を左右する。

以上より、本事業は拙速な拡大ではなく、理念の明確化と村民主体の合意形成を基盤とした中長期的支援体制の構築が求められる段階にあると評価する。

## 「村民主体性が発揮されない状態」の原因

まず、主体性が出ないのは村民の意欲不足というより、

- そもそも「何のための創造の森か」が腹落ちしていない
- 参加しても決定権がない（＝“手伝い”にしかない）
- 成果が見えない／評価されない
- 関わり方が分からない（役割が曖昧）
- 村民の生活の延長線にない（外部の活動に見える）

この構造があるから。

## 最も効果的と思われる解決策

- ① 「村民が語れる問い」をつくる（理念の共通言語化）
- ② 村民を「参加者」ではなく「編集者」にする
- ③ 「村民が主役の小さな成功体験」を最速で作る

## ① 「村民が語れる問い」をつくる

いきなり「創造の森のビジョンを作しましょう」だと抽象的すぎて失敗します。

村民が語りやすい問いに落とすのがポイント。

例：

「子どもに残したい生坂ってどんな村？」「昔の生坂の山・川はどうだった？」「生坂の誇りって何？」「観光客に来てほしくないのはどんな人？」「村の外に伝えたい“暮らしの知恵”は何？」

これを座談会形式（飲み会形式でもOK）で複数回やって、語られた言葉を記録し、整理して「村の言葉」にしていく。

主体性は“会議”ではなく、“語り”から生まれます。

## ② 村民を「参加者」ではなく「編集者」にする

主体性が出ない最大要因は、村民が「運営の外側」に置かれることです。

だから村民には、手伝いではなく「何を残すか」「何を見せるか」を決める編集権を渡します。

具体的には、

- 里山再生で何を優先するか（景観/山仕事/農地/獣害対策）
- どの文化を観光に載せるか（おてんま/祭り/食/山仕事）
- どこまで観光客を受け入れるか（線引き）
- この編集を担う「村民編集会議」をつくるのが効果的です。（月1回×90分くらい）

## ③ 「村民が主役の小さな成功体験」を最速で作る

主体性は理念ではなく、**成功体験の積み重ね**で生まれます。

おすすめは「1回完結で達成感が出る企画」。

例：

- 村民が先生になる「暮らしの技体験」（味噌・漬物・薪割り・山菜）
- 「昔の水路を歩いて語る」ツアー
- 獣害対策の現場見学＋村民の話
- 舞台引きの準備の見学と対話
- 「創造の森で一緒に火を起こして飯を食う会」

ポイントは、外部が“教える側”ではなく、村民が“伝える側”になる設計にすることです。

地域名 和歌山県和歌山市  
事業者名 地域課題解決型観光開発和歌山モデル協議会

# 地域課題解決型観光開発 和歌山モデル調査・検討事業



第2のふるさと

A NEW HOMETOWN



### 株式会社和み（申請主体）

- ・ 空き家再生、ゲストハウス運営、地域調整、全体管理



### 大阪観光大学

- ・ モニターツアーへ学生派遣・セミナー講師派遣、セミナー運営



### クラブツーリズム株式会社

- ・ モニターツアー募集、セミナー講師派遣、アンケート調査



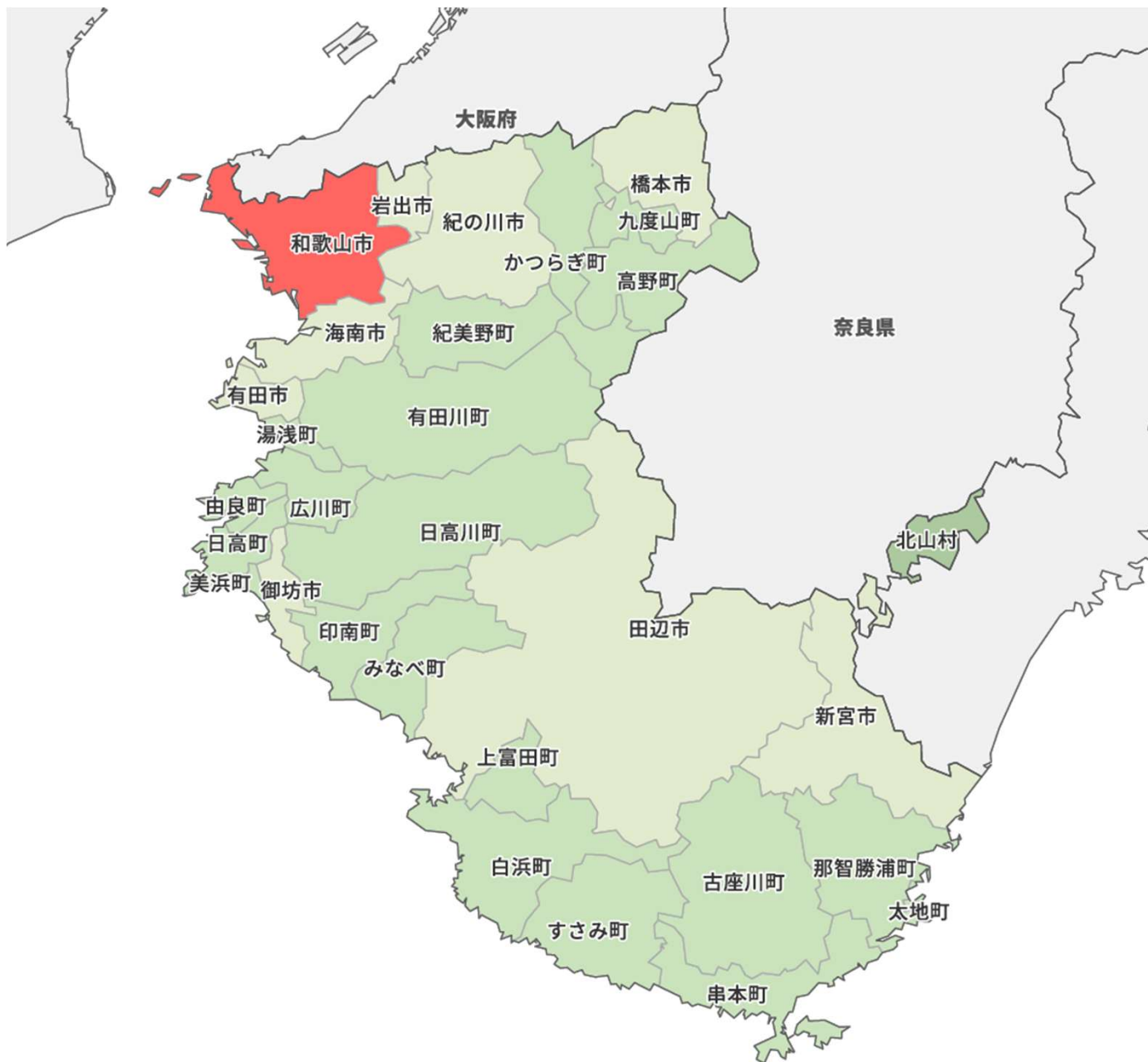
### 一般社団法人観光立国プラットフォーム

- ・ インプリージョン、おてつたび、aubBiz モニターツアー募集、アンケート調査

### その他協力団体

- 和歌山県
- 和歌山市
- 和歌山市観光協会
- 和歌山電鐵
- NPOさんどう
- ANTA和歌山県支部
- 和歌山リビング新聞など

	実績 (目標)
のべ参加者数	60人 (60)
内宿泊伴う来訪者	106人泊 (90)
重複除く来訪者数	18人 (15)
地域消費額	1,054千円



## 人口

県全体 約87万2,359人  
和歌山市 約350,911人

※令和7年4月1日時点

## 令和5年 観光入込客総数

約31,941千人

日帰り客 約27,019千人

(日帰り率：約84%)

## 観光消費単価

日本人国内旅行 7,422円/人

※全国平均44,034円 (2023年)

## 空き家率

和歌山県全体 21.2%

全国ワースト 2位

都市圏の企業・コミュニティとの連携を重視、**B2B2Cの共創型**で**持続可能な観光地域づくり**を目指す！

## A：親子釣り教室

ゲストハウス滞在 仕掛け作りから魚捌き体験そして船釣りまで親子で学ぶ4回コース  
(株)インプリージョン



## B：おてつたび

4回異なる「お手伝い」、空き家再生、ホテル、NPOのイベント、居酒屋の4回コース



## C：テレワーカー

テレワークと熊野古道をセット  
ローカルテレワーカー  
育成セミナーも開催  
株式会社aubeBiz



## D：旅のヘビーユーザー

旅慣れた都市圏ユーザーに背景を知り応援する旅を体験  
クラブツーリズム株式会社



## E：大阪観光大学学生

観光学特別演習、地域連携実践型プログラムで空き家再生などを体験



オンラインでの旅マエ講座  
のべ168名が受講

オフラインでのPRセミナー

第2のふるさとへの旅を楽しむオンライン講座

第1回 テーマ/和歌山市の課題を解決！  
関係人口が集まる楽しい町をつくらう！

1. 空き家再生で観光拠点をつくろう！  
2. 関係人口で和歌山市の人材不足を解決しよう！

ゲスト 株式会社和みプロデューサー 永田大樹氏  
ゲスト 株式会社おてつたび新橋営業 源執事業リーダ 堀内祐多氏

MC 大阪観光大学特任教授 小野田金司氏

ZOOM 9/11 THU 18:30~20:00

主催/大阪観光大学 課題解決型観光開発和歌山モデル協議会



第2のふるさとへの旅を楽しむオンライン講座

第2回 テーマ/和歌山市の課題を解決！  
関係人口が集まる楽しい町をつくらう！

③ 地域を元気にする「ローカルテレワーカー」にあなたもなれる！  
④ 和歌山市の釣りと魚科産でお母さんが変えるファミリーツアーを！

ゲスト 株式会社 aubeBiz 代表取締役 酒井晶子氏  
ゲスト 株式会社 インフリージョン 代表取締役 オダギリ サトシ氏

MC 大阪観光大学特任教授 小野田金司氏

ZOOM 9/18 THU 18:30~20:00

主催/大阪観光大学 課題解決型観光開発和歌山モデル協議会



第2のふるさとへの旅を楽しむオンライン講座

第3回 テーマ/和歌山市の課題を解決！  
関係人口が集まる楽しい町をつくらう！

⑤ 和歌山市の日本遺産を10倍楽しめる旅を教えます！  
⑥ 熊野古道紀伊路を世界遺産へ広げたい！

ゲスト クラフツーリズム株式会社 テーマ旅行部 部長 黒田尚嗣氏  
ゲスト 熊野古道を世界遺産に登録するプロジェクト 準備会 代表 小野田真弓氏

MC 大阪観光大学特任教授 小野田金司氏

ZOOM 9/25 THU 18:30~20:00

主催/大阪観光大学 課題解決型観光開発和歌山モデル協議会



第2のふるさとへの旅を楽しむオンライン講座

第4回 テーマ/和歌山市の課題を解決！  
関係人口が集まる楽しい町をつくらう！

⑦ 地域ファンであなたも第2のふるさとづくりを楽しもう！  
⑧ 和歌山市の楽しい観光開発と観光地経営人材の育成！

ゲスト 日本橋くさみ行政士事務所 代表取締役 石井くるみ氏  
ゲスト 大阪観光大学 特任教授 小野田金司氏

MC 大阪観光大学特任教授 小野田金司氏

ZOOM 10/2 THU 18:30~20:00

主催/大阪観光大学 課題解決型観光開発和歌山モデル協議会




「魚を釣る」のが目的ではなく「『釣り』を学ぶ」プログラム  
仕掛けづくり、撒き餌づくり、投げ方、魚の調理法（さばき方）  
⇒最終回（第4回）で主婦が70cmのぶりをゲット！



- ★和歌山市内から10分で船釣り乗船場という恵まれたロケーション
- ★★魚の調理してお土産にでき、夕食の準備不要が主婦の味方
- ★★★主婦が70cmのぶりをゲットするとマンションを探しだす！

ビギナーズラックの精度を高めると「特別な思い出の聖地」に

50代主婦（初）、30代女性（3回目）、20代男子学生（初）が参加

【申込傾向】

- ・定員3名に対し、5～7名の申し込み、4回通うモデルでも人気があった。
- ・居住者は関西圏であり、和歌山市として近隣区間での参加となった。

おてつたびとは？

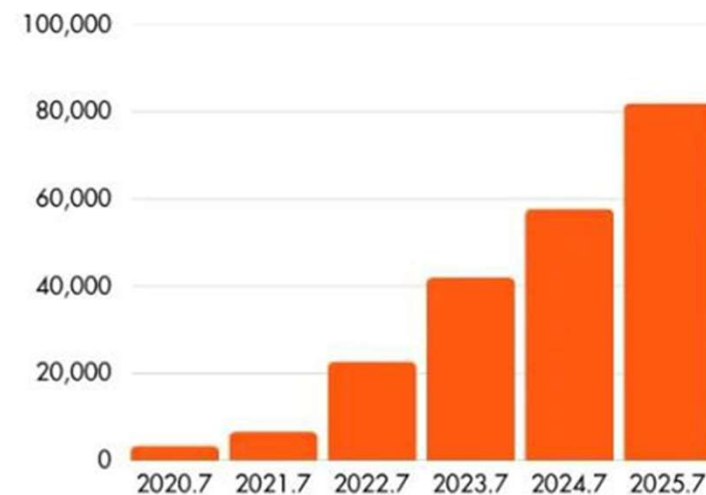
人手不足で困っている事業者と、地方に興味のある方々を  
Web上でマッチングさせるプラットフォーム



13

登録ユーザー数

82,000人



※2025年7月29日 時点



日程調整不可

【和歌山第二のふるさとプロジェクト（全4回）】第1弾 ♡ 何度も通うおてつたび ♡ 空き家・空き店舗をリノベーションして生まれた飲食店や宿泊施設でおてつたび！空き家再生事業に関われる貴重な機会です！



日程調整不可

【和歌山第二のふるさとプロジェクト（全4回）】第2弾 ♡ 何度も通うおてつたび ♡ 和歌山のヴィラリゾートで清掃等のおてつたび！豊かな自然に囲まれた里山で過ごしながらかお手伝いができます！

和歌山県 和歌山市（わかやまし）

年齢不問 学生歓迎 未経験OK 複数名採用 友達歓迎 収入が見える

地域の方と触れ合う機会多い



日程調整不可

【和歌山第二のふるさとプロジェクト（全4回）】第3弾 ♡ 何度も通うおてつたび ♡ イベント準備として、竹灯籠製作のおてつたび！イベント準備の地域活性化事業に関われる貴重な機会です！

和歌山県 和歌山市（わかやまし）

学生歓迎 未経験OK 複数名採用 友達歓迎 1日4時間以内 経験、年齢自由



日程調整不可

【和歌山第二のふるさとプロジェクト（全4回）】第4弾 ♡ 何度も通うおてつたび ♡ 年末年始に空き家・空き店舗をリノベーションして生まれた飲食店や宿泊施設でおてつたび！空き家再生事業に関われる貴重な機会です！

和歌山県 和歌山市（わかやまし）

学生歓迎 複数名採用 まがないろいろ

【評価関係】

・相互レビューから、スタッフの親切さやコミュニケーションが取れているかで参加したおてつたび先・地域への評価が分かれる。

・移動時間などの勤務時間外で地元の人とのコミュニケーションから、立ち寄り場所の発掘や実際の周遊に繋がるケースがあり、その点通常の観光では訪れられなかった場所への来訪に繋がった。

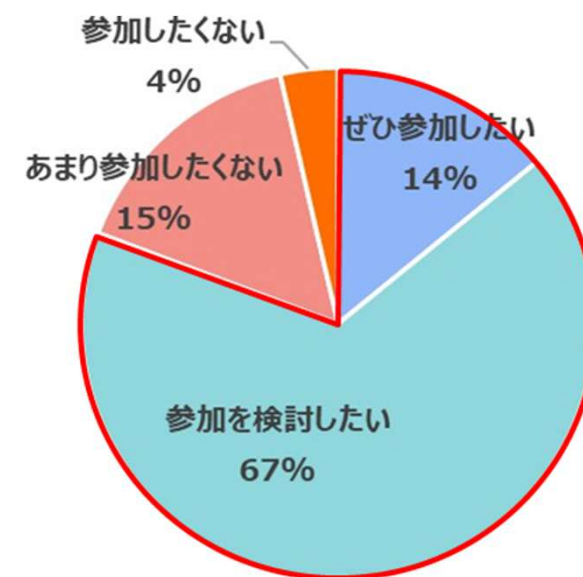
・4回とも違う仕事内容であったが、問題なく就業を終え、貴重な体験としての評価に繋がった。

「テレワーカー」が地方に行く理由  
⇒そこに「テレワーカー」がいるから  
ローカルテレワーカー育成  
⇒そこから始まる都市圏との関係



- ・ローカルテレワーカー講座は22名が参加
- ・モニターツアー全4回のべ14名が参加
- ・最も消費額が高い@28,231円
- ・テレワークも1件獲得

**Q1:**和歌山市の関係人口を増加させるため、全4回の参加をセットにしたワーケーションプランが次年度企画された場合、そのプランに参加したいと思われませんか？



「クラブツーリズムキャスト」が関心のもつコンテンツとは？  
都市圏の旅好きが地方へ観光投資して関係人口にならないか？  
熊野古道紀伊路の世界遺産追加登録は関心あるか？



60歳代女性3名参加  
大阪府、兵庫県在住  
1泊2日の4コース

【第1回10月29日-30日】  
熊野古道紀伊路と和歌山城

【第2回11月19日-20日】  
熊野古道紀伊路と日本遺産  
和歌の浦

【第3回12月17日-18日】  
紀国神話の里と港町・加太

【第4回1月7日-8日】  
たま駅長初詣と戦国時代の史跡

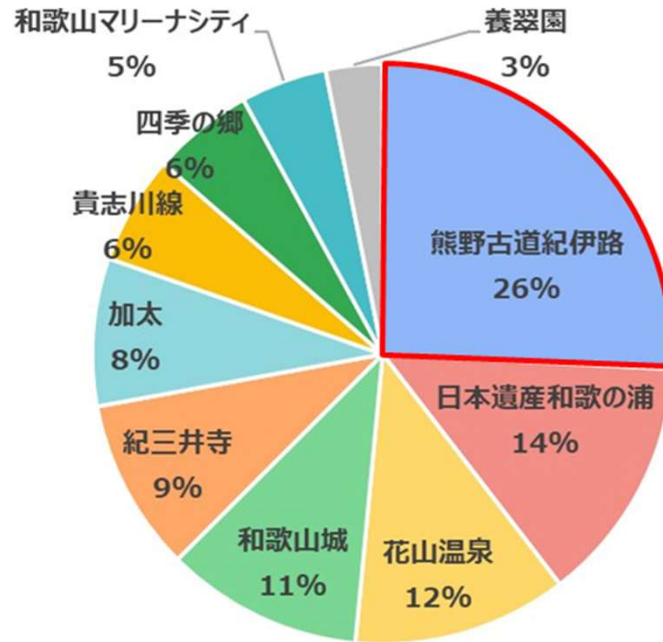


世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録エリア  
2004年世界遺産登録（青線）・2016年輕微な変更（赤線）  
ガイドナビゲーター小野田真弓氏  
（熊野古道を世界遺産に登録する準備会運営代表）

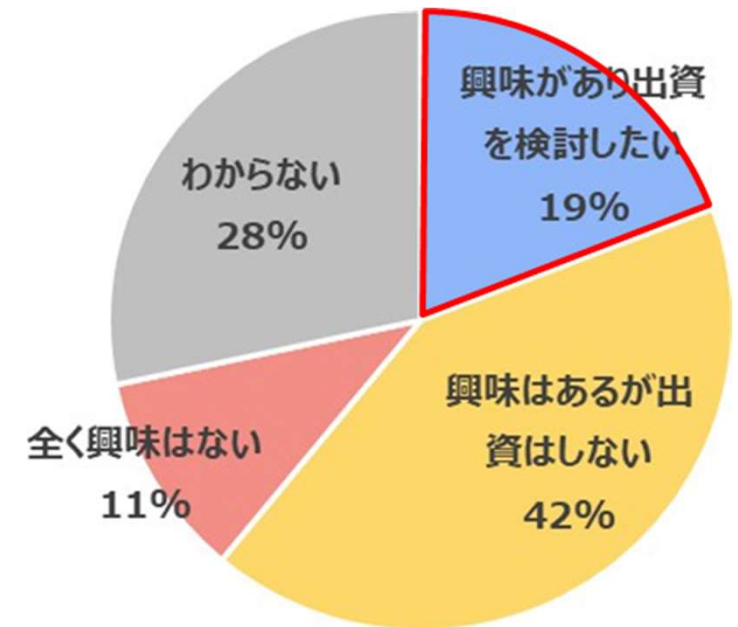
紀伊路の世界遺産追加登録を！



Q2:和歌山市で観光したい観光資源はどれですか？  
※全体アンケート  
(複数回答可)



Q3:和歌山市では地域ファンドを計画中です。空き家再生のホテル開発などに出資し、出資者が宿泊できる仕組みを検討しています。このような取り組みに興味ありますか？



クラブツーリズムキャストは熊野古道紀伊路が79.3%  
続いて日本遺産和歌の浦40.4%  
定番の和歌山城 (4位)  
和歌山マリーナシティ (9位)  
観光資源は「住民」と「ヘビーユーザー」でギャップあり

興味のある層は約6割と多い  
出資検討者は2割前後

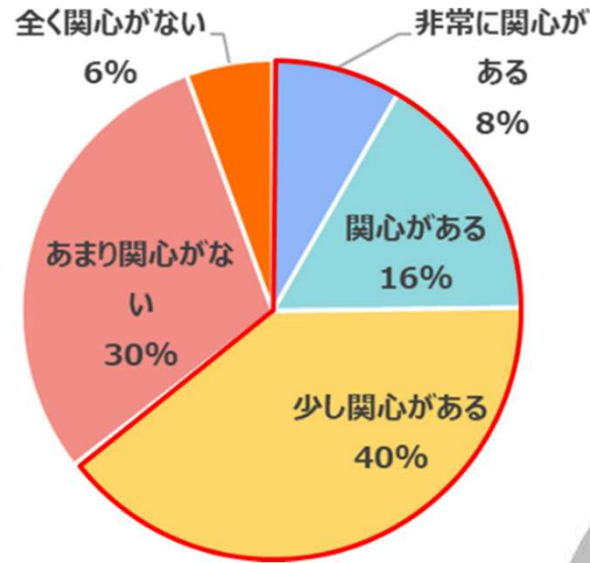
日本人学生2名と外国人留学生1名が参加  
空き家再生（古民家清掃）、和歌山電鐵（清掃・調査など）、地域  
イベント準備・運営（NPOのサポート）を4回実施、のべ17日間



人気体験（1位）古民家清掃 （2位タイ）その他の体験  
特に中国人留学生は古民家再生に興味が高い！  
受入側も留学生への評価が高い！

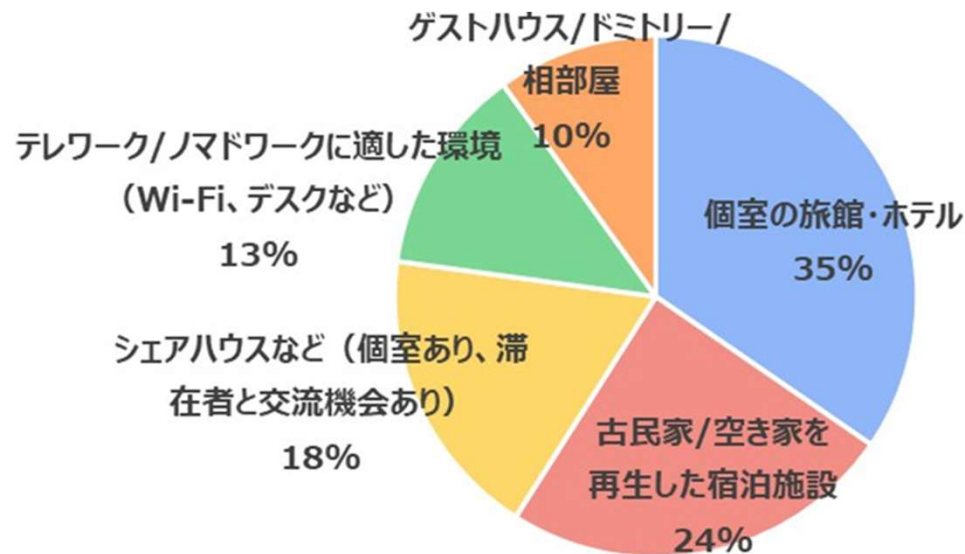
Q4:将来的に、和歌山市に「複数回来訪（二地域居住）」や「移住」をすることに興味がありますか？

**A: 半数以上が二地域居住や移住への関心あり**



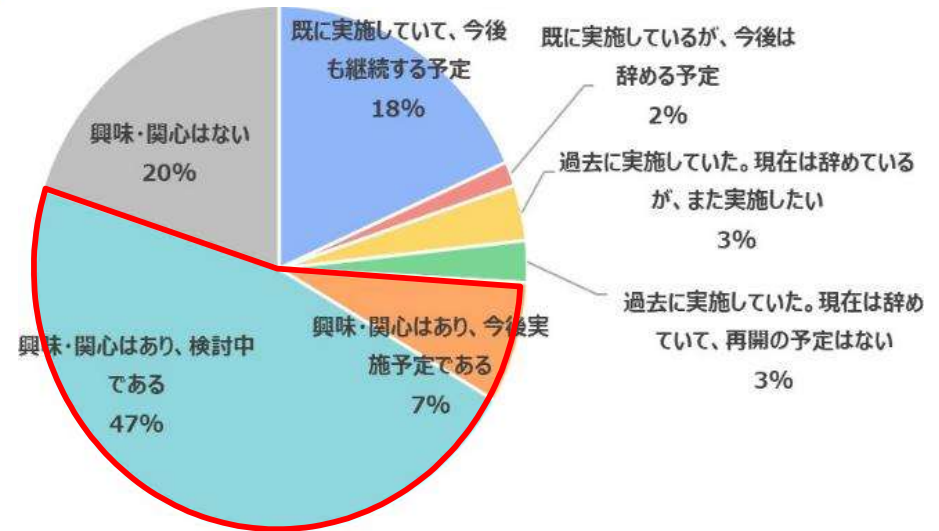
Q5:滞在したい宿泊施設は？

**A: 民泊やシェアハウスなど多様な滞在ニーズが存在**



Q6:居住場所以外に、年に複数回訪問すること、または、複数拠点で生活することに関心は？

**A: 関係人口は2割、潜在的な関係人口の割合は約54%**



【アンケート実施先】 総計：478件  
 ①クラブツーリズム（193件） ② aubeBiz（50件） ③おてつたび会員（17件） ④おてつたび学生（59件） ⑤大学・Templat（47件） ⑥インプリージョン（102件）

- ・「**観光地の魅力**」×「**アクセス**」を幅広い層に届けることが必要
- ・「**担い手活動による地域貢献**」から「**地域を知る**」ことで**地域への愛着度**を高めることに繋がる。**事前学習（旅マエ講座）**も重要。
- ・4回以上のプランでは、**人気の高い春・秋**を取り入れ、休暇の取りやすい**夏・秋で日程を増やす**のも有効と想定。**酷暑対策も重要**。  
①春（2泊3日）→②夏（3泊4日）→③秋（3泊4日）→④冬（2泊3日）
- ・観光地としての「**魅力が高い× 担い手活動**」による地域貢献  
→ **観光地分散の観点**でも新たな層の取り込み、関係人口化が見込める
- ・観光地としての「**魅力が乏しい× 担い手活動**」による地域貢献  
→ 地域貢献から地域を知り、**リピーター層の拡大＋関係人口とともに地域プロデュースが有効**

地域名 広島県三原市

事業者名 株式会社まちづくり三原



国土交通省  
観光庁

# MACHIDUCREW DAOを活用した “第2のふるさと”祭り体験型ツアーリズム

 まちづくり三原

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN



### ■取り組みの成果（定量的なアウトプット）

- ・ コミュニティ（DAO）登録者数：378名増加
- ・ 延べ来訪者数：296人（内、再来訪96人）
- ・ 地域外の担い手創出：12名
- ・ 地域消費額：1,189,327円
- ・ 経済波及効果額：1,934,327円

（地域消費額に地域貢献活動の工数の費用の合算額）

神明市  
(2月)



半どん夜市  
(6月)



やっさ祭り  
(8月)



浮城まつり  
(11月)



季節ごとにお祭りが新幹線駅周辺（徒歩5分圏内）に集まっているまち



まちの担い手が減少  
踊り手も減少



地元



市外県外

地域を知りたい！  
課題解決したい！  
お祭りに関わりたい！

～WEBアプリ「MACHIDUCREW DAO」を使い～  
市外の人が担い手になりながら楽しめるお祭り体験ツアーをスタート



コミュニティアプリ画面  
旅前のクイズで認知向上

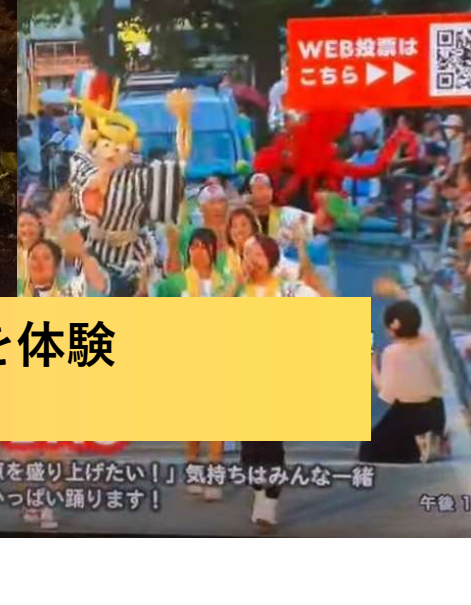
○お祭りSNS告知しよう!



○やっさ祭りの動画を見よう!



旅マエに活動していると地域貢献度トークン「YASSA」が溜まり様々な特典に交換へ!



「手伝い」から「踊りで出場」、そして受賞結果待ち・・・を体験  
その体験を報告すると「YASSA」も溜まっていく！

No. 40 やっさ踊り初挑戦ですが「三原を盛り上げたい！」気持ちみんな一緒心をひとつにして笑顔と元気いっぱい踊ります！



ひとり1個まで

## 【ランチ】お米と...

三原のお米と瀬戸内の魚をより美味しく 築100年の古民家レ...

🏠 1Lv以上

600 YASSA



ひとり1個まで

## 【🦑】800

創業100年 魚細井

🏠 1Lv以上

3



ひとり1個まで

## 【🍹】500円クーポン...

「みなとオアシス三原」は、住民や観光客の交流拠点...

🏠 1Lv以上

200 YASSA



ひとり

## 【モノ】三原た

🎁 三原の縁起物といレ! 江戸時代末期か

🏠 1Lv以上

250 YA



ひとり1個まで

## 【モノ】瀬戸内三原...

🍊🌟 瀬戸内三原のおいしい土産ものと交換 瀬戸内・三原...



ひとり1個ま

## 【宿泊】新幹線駅か

🏠 瀬戸内海に浮かぶ、新駅から最も近い離島「佐...

🏠 10Lv以上

YAS

特典と交換できるもの、他にも、お祭り出店権なども？

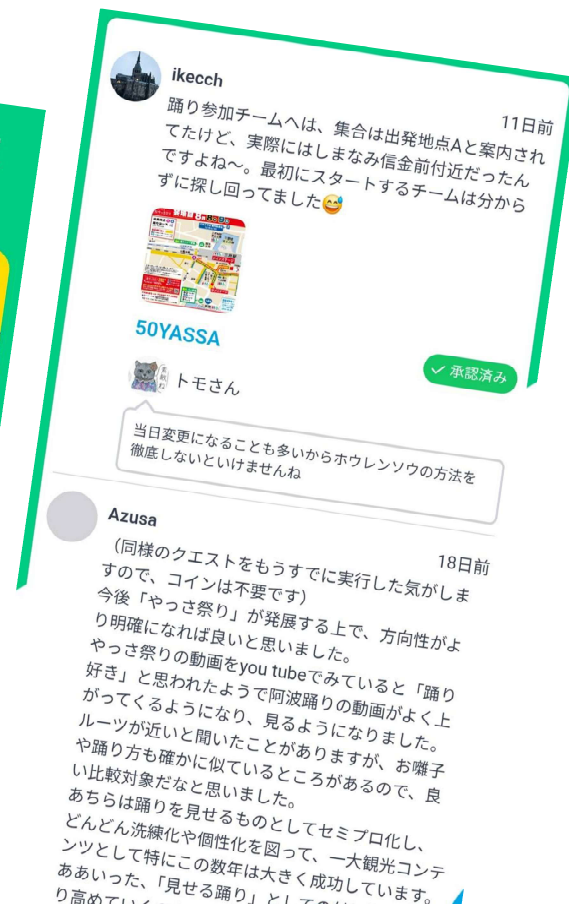
## 参加証明書NFT発行



## DAOで振り返り！



- 💡 報告方法：コメント投稿
- 🍷 コメント例：「踊りチームのそれぞれの見どころを事前に知れるようにしたい」
- 🍷 コメント例：「飲食エリアをもっとわかりやすく！事前にどんな飲食があるか知りたい！」



Azusa  
18日前  
(同様のクエストをもうすでに実行した気がしますが、コインは不要です)  
今後「やっさ祭り」が発展する上で、方向性がより明確になれば良いと思いました。  
やっさ祭りの動画をyou tubeで見ていると「踊り好き」と思われたようで阿波踊りの動画がよく上がってくるようになり、見るようになりました。  
ルーツが近いと聞いたことがありますが、お隣子や踊り方も確かに似ているところがあるので、良い比較対象だと思いました。  
あちらは踊りを見せるものとしてセミプロ化し、どんどん洗練化や個性化を図って、一大観光コンテンツとして特にこの数年は大きく成功しています。  
あぁいった、「見せる踊り」としての

改善点や感想などをあげていくと、「YASSA」も溜まる。

神明市  
(2月)



半どん夜市  
(6月)



やっさ祭り  
(8月)



浮城まつり  
(11月)



そして、貯めたYASSA交換を次回のお祭りへ活かすことで再来訪へ！

浮城まつり  
(11月)



DAY1

三原浮城まつり  
小早川甲冑行列体験

その他の動画 甲冑をまとい、小早川隆景の“浮城”に息づく戦国の記憶をたどる



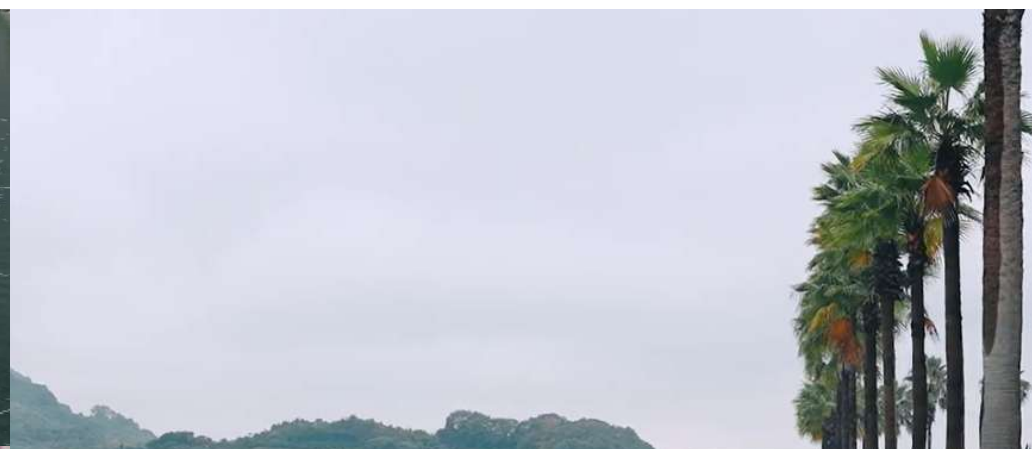
三原浮城まつり  
サムライゴゼン -毛利食-体験

その他の動画 毛利元就がもてなした“饗応食”を再現した、歴史御膳を味



三原浮城まつり  
お祭りスタッフ体験

その他の動画 祭りを裏側から支えるスタッフとして参加する特別な体験



再来訪の参加者含めて、浮城まつりのツアー実施。  
お祭りとお祭りの間に来訪されたり、浮城まつり後に多くの方がイベント外に再来訪



三原浮城まつり  
お祭りスタッフ体験

その他の動画 祭りを裏側から支えるスタッフとして参加する特別な体験



なみサイクリング体験  
アシスト自転車ガイドとめぐる  
なみ海道”絶景サイクリング

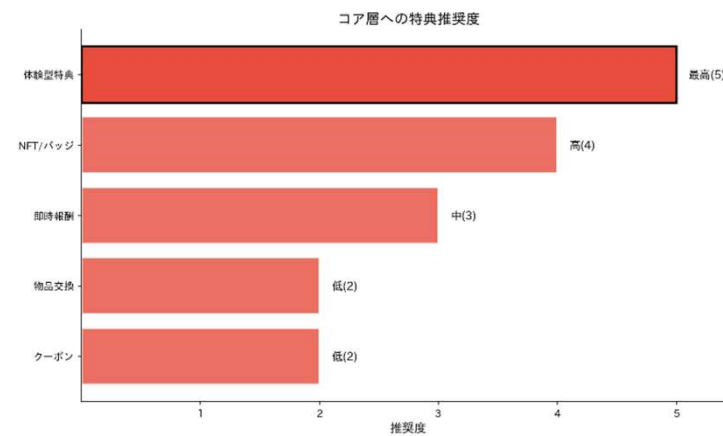
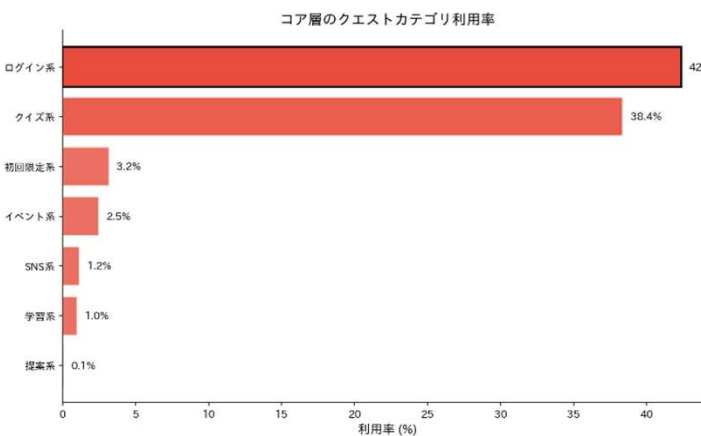
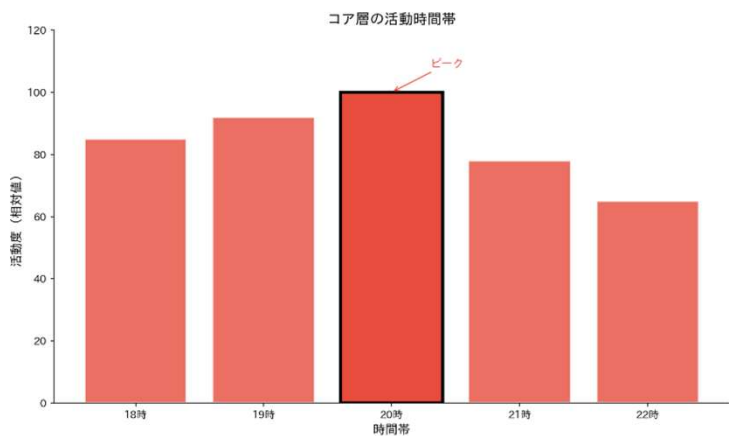
# 1

## 今年度のデジタルデータ分析を活かした集計と戦略を！

DAOを活用することで、お祭りに来た方が再来訪をカウントできたなどDAOならではのデータ集計をすることが出来た。

一方、利用者のクエストや特典交換の時間や内容、そしてユーザーの属性をデータとして蓄積することが出来たので、これらを活かした戦略を来年度に活かす！

例えば、クエストで言えば、発行のタイミングは20時頃が一番反応が良く、内容については、ログインやクイズ、提案が喜ばれ、特典交換は物品よりも体験やお金では買えない現地ならではのアイテムや称号、NFTが大事であるなど。



# 2

## 広域連携で広くとゆるく！

2つのお祭りでのアンケート結果によると、共通して、「短期間でじゃ周りきれない」「もっとゆっくりできる時間」「しまなみ海道があるから、三原もついでに」などの意見が多かった。

詰め込みは、ふるさと感じるには遠のくと考え、「ゆるくまちを触れる時間と機会づくり（マップやおすすめの人に会いに行くなど）」と「交通の良さを活かした三原周辺の魅力を武器に広域でのツアー」を来年度にはチャレンジしていく。

# 3

## 第2の“先輩”ふるさと体験を！

昨年度、お祭り2回目の参加者が、初めての参加者へ「僕、地域を変わりに案内しますね！」と、運営の代わりに動いてくれた方がいました。

お祭りへ訪れる度に2, 3回と訪れるからこそ担える役割があると感じ、それを「意識した体験づくり」をすることで、本当に新たな担い手&2, 3回目ならではの体験につながると考え、来年度はチャレンジしていきたいと思っています。

地域案内人、お祭りスタッフリーダー、1つの企画担当者などを作り上げていきたい。

地域名 北海道洞爺湖町  
事業者名 株式会社渡辺梱包企画

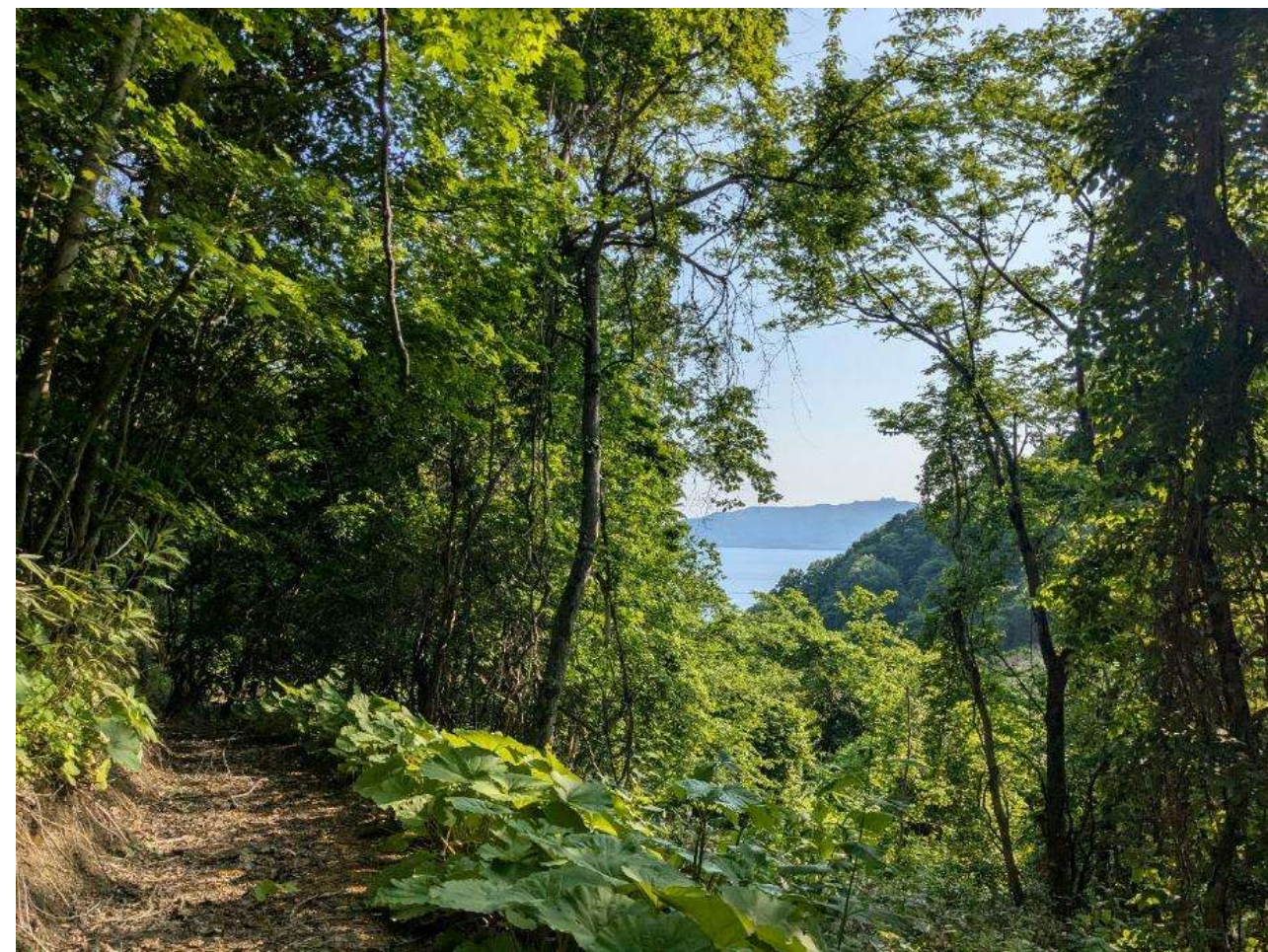
# 「トーヤの森」における実証事業

山遊びは無量大

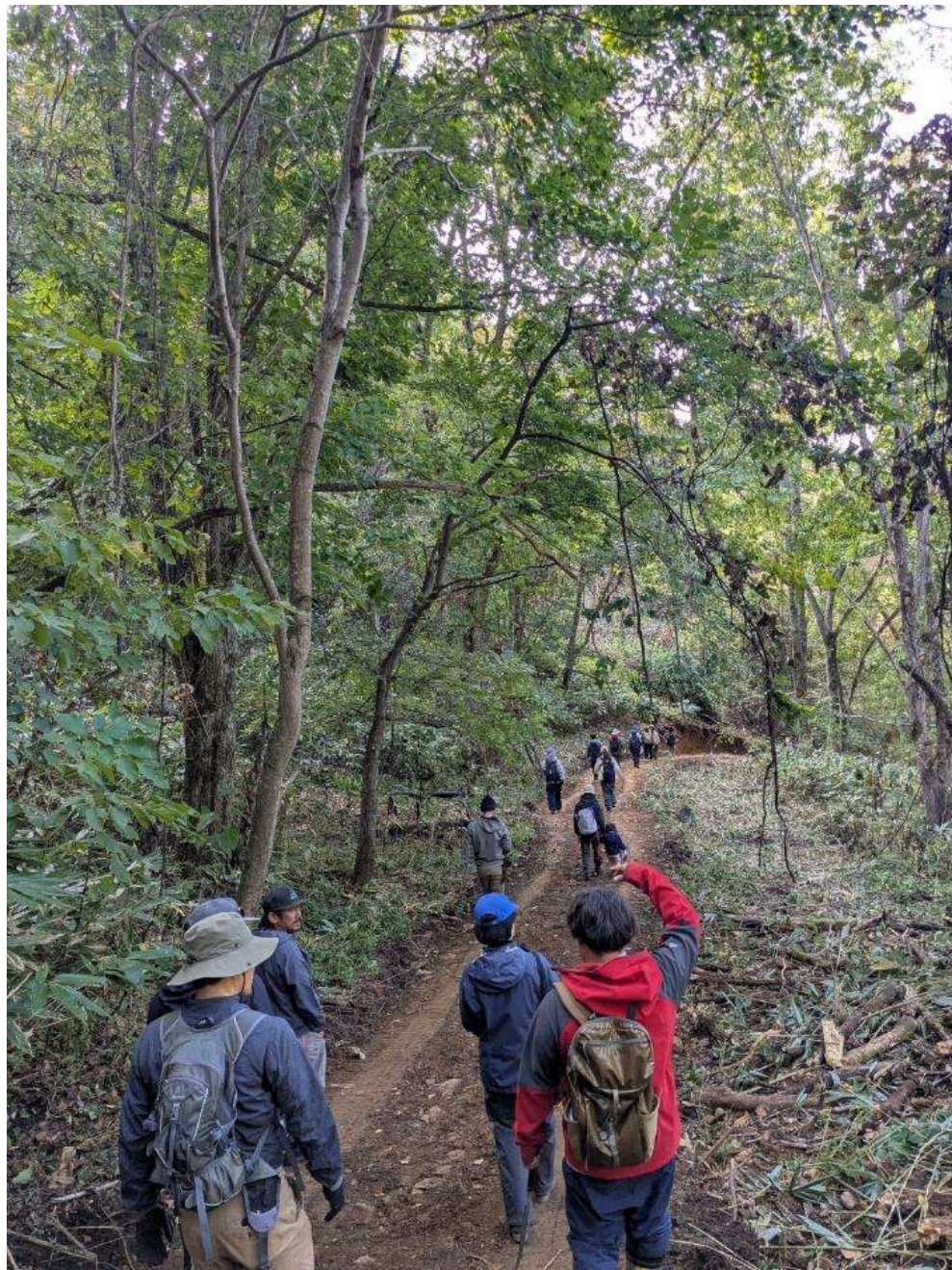


第2のふるさと

A NEW HOMETOWN



トーヤの森：洞爺湖をのぞめる森林



- ✓ 森林作業道の専門的な研修から
- ✓ 道のレーキ掛け体験など森を初めて知る企業向けの研修まで



- ✓ 森の素材を街に持ち込み飾り付けるワークショップ
- ✓ 古民家を、地域の協力によってお借りした





- ✓ 林業のドキュメンタリー映画を上映
- ✓ 研修企業だけではなく、地域の方にも声がけして、多くの方が参加

- ✓ 自然共生サイト登録予定地において生物調査を体験
- ✓ 専門家によるネイチャーポジティブ研修



- ✓ 直火で行う焚き火等のアウトドア講座
- ✓ キャンプ場等では一般的に禁止だが、トーヤの森であれば可能

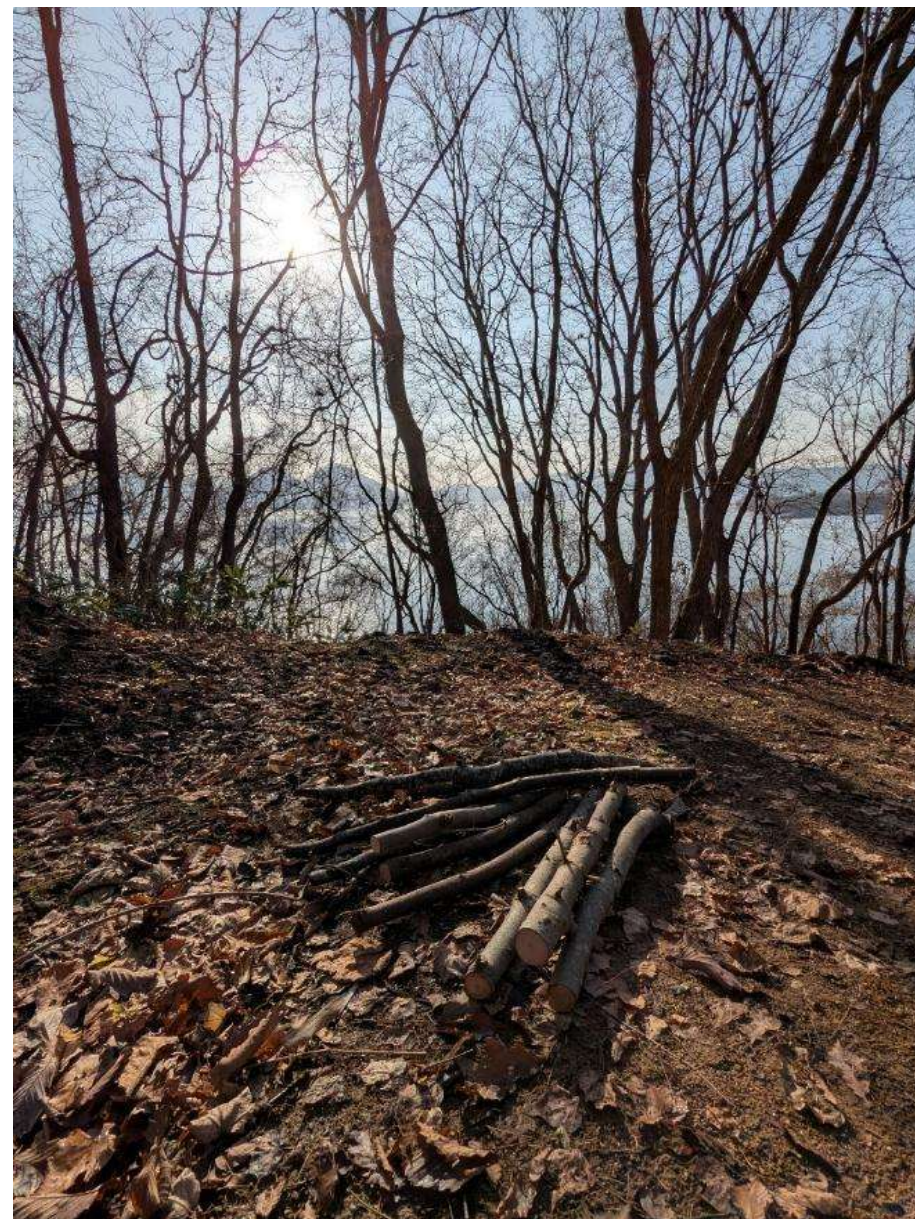




open-day 9月  
ワーケーション試行  
（蚊帳の中でデスクワーク。意外に捗るとのこと）

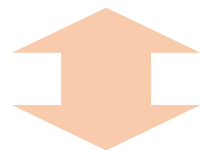
✓ 「open-day」 定期的プログラムを  
試行

open-day11月  
森の素材集め  
（木育イベントで使用したとのこと）



個人

従来とは異なる、環境配慮・体験重視型のプログラムは観光や滞在の選択肢の幅が広がる



企業ならではの動機

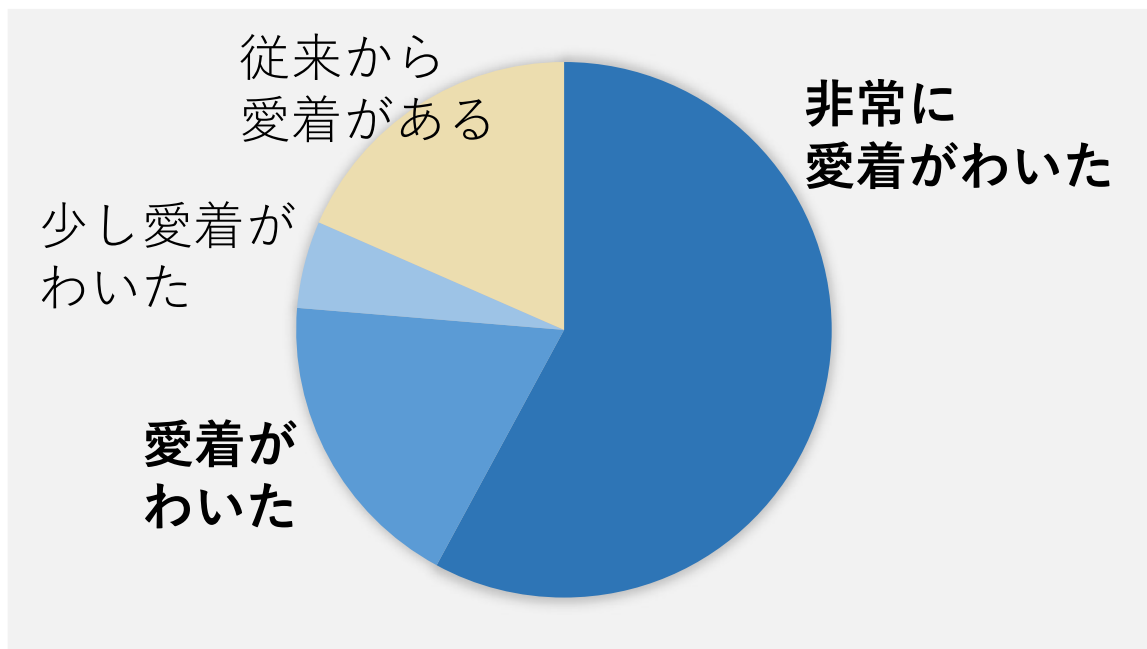
企業

ネイチャーポジティブへの参加  
機会は、企業にとって関心ごと

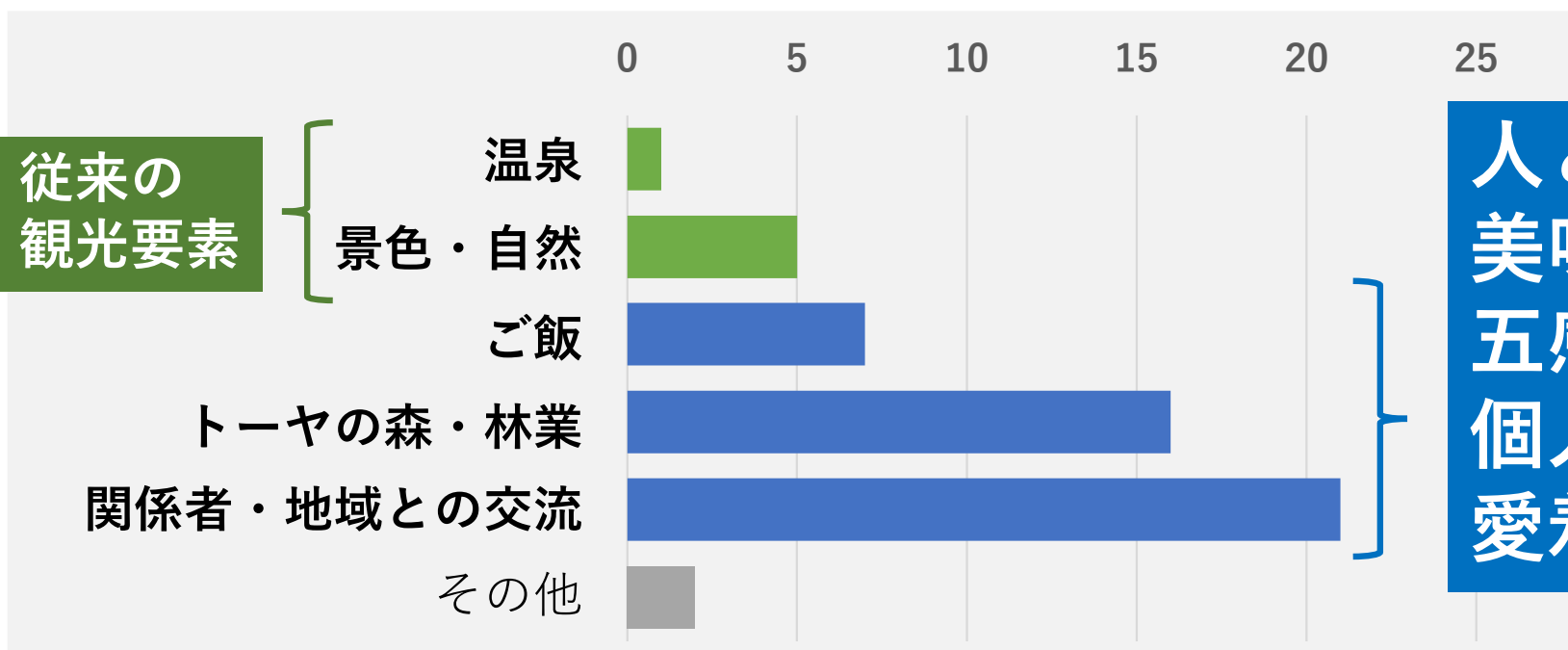
森に入って行うプログラムは、  
企業として、  
森で・森と・森に何ができるか  
考えることに繋がる

オーダーメイド（自由さ）より  
企業に刺さる案の提示（プランニング）が有効

将来的な  
アクション  
の可能性



理由



人とのつながり、  
美味しい等の  
五感が生む  
個人的な感動が  
愛着を増進

企業  
としての  
参加動機



個人  
としての  
感情の揺れ



企業版  
第2の  
ふるさと

業務効果等を感じ  
るプログラム  
であること

地域や関係者の  
想いで、人の心に  
訴えること

愛着をもって  
継続的に  
来訪すること



地域名 北海道十勝郡浦幌町  
事業者名 一般社団法人 十勝うらほろ楽舎



# うらほろアカデメイア2.0



十勝うらほろ楽舎

うらほろ  
アカデメイア

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

- 1.一般社団法人十勝うらほろ楽舎について
- 2.観光庁企業版第2のふるさとづくり採択事業  
うらほろアカデメイアについて
- 3.目指すことや今後について

## 次世代につながる地域社会のモデルをつくる



## ウェルネス



キッズトレーニング

幼保から小学校低学年までの一貫した運動機会を創出する取組です。



うらほろマラソン

浦幌町で開催する「うらほろマラソン」実行委員会の事務局を担っています。



上浦幌地区スポーツ推進事業委託業務

アスリートと連携し、上浦幌地区のスポーツ振興を担っています。



## Local Co-creation Initiative

うらほろ郵便局活用推進事業の事務局業務

郵便局の物流網と拠点性を活かし、関係者と連携して施策を推進しています。



商品開発

農林水産が豊かに揃う浦幌町で、一次産品を使った地域内事業者様のモノづくりをサポートしています。



ふるさと納税

寄附の受付から返礼品の開発、広報等、ふるさと納税を通じた地域振興を推進しています。



リジェネラティブ推進

大地を再生していくリジェネラティブ農業をJA、農業者、企業など多様なパートナーと共に推進しています。



Jクレジット

町内事業者や自治体が管理する森林から生み出されるJクレジットを媒介とし、企業との連携を図ります。

## 自然資本の再生と循環

## 人財育成



うらほろアカデミア

自然・社会と経済を接続する次世代リーダー育成のための農業種混合企業研修会です。



アグリダイブ

農作業と住民との対話セッションを通して、自分のキャリアスタイルの確立を目的とした農業インターンシッププログラムです。



ジェンダー

ジェンダーギャップについての勉強会や十勝管内の自治体や議員のネットワークづくりを行っています。



大学連携スタディーツアー・大学成長期インターンシップ

大学生が浦幌で滞在し学ぶスタディーツアー・大学生の長期実践型インターンシップのコーディネートを行っています。



うらほろ地域同期会

浦幌町内の企業で働く入社1年目～3年目の新入社員の企業合同研修会を開催しています。



国際連携

一般社団法人SackOmiと協働し、万博を契機とした国際交流を推進しています。

## 教育



うらほろスタイル

浦幌町で学校、企業・団体、町民、行政など、地域が一体となって取り組んでいる「次世代を軸としたまちづくり」事業です。



教育旅行

道内外問わず数多くの中学校・高等学校で探究学習プログラムを実施しています。



答えのでない矛盾から、  
仕事・会社・生き方を自ら再定義する。

うらほろ  
アカデミア

仕事の  
意味付け

会社の  
方向性

未来への  
眼差し

## PROGRAM



### 「命と経済」

五感を使い探求する、農業や酪農の現場でのフィールドワーク。



### 「理想と現実」

農業・まちづくりの現場で活躍する挑戦者との対話と探求。



### 「今と未来」

林業・まちづくりの現場で活躍する挑戦者との対話。そして、自身の価値を問い直し今後の生き方を語る。

## ABOUT

### 五感を刺激する自然

都会とは異なる非日常の自然・食文化の環境に身を置き、五感を研ぎ澄まし自然型思考に触れる

### 課題先進地域 うらほろが舞台

課題に対して都市部からの企業人と地域住民の協働で挑戦し続ける浦幌町。官民学が全面協力で、まち全体が学びの場となる。

### プロのサポートのもと 問いに向きあう

HRや学びのプロフェッショナルと元アスリートが併走を行い、より深い問いをたてることをサポート

今年度内には5回、事業期間内には4回実施。  
初の試みとしてCHRO回を開催、

(5/23~5/25)

7/3~7/5  
CHRO会

7/31~8/2

9/18~9/20

10/9~10/11



実施回数  
10回  
(事業期間内  
には4回)

延べ参加者数  
96名  
(事業期間内  
には43名)

延べ参加団体数  
57社  
(事業期間内  
には35社)

参加者年齢  
平均値 45.3歳  
中央値 45.5歳

企業リピート率  
約30%

研修満足度  
4.95点  
(5.00点満点)

ホスピタリティ  
満足度  
4.87点  
(5.00点満点)

「研修を通じた  
情報交換を  
望む」  
100%

1/15にはうらほろアカデミアカンファレンスを開催。  
合計71名の参加、過去アカデミア参加者のうち半数が参加。



1/15にはうらほろアカデミア カンファレンスを開催。  
合計71名の参加、過去アカデミア参加者のうち半数が参加。



## 2.うらほろアカデミアについて-参加企業から見る実施実績



この他にも、住宅・電子機器・飲料・メディア・ITなど様々な業界から、大企業からスタートアップまで幅広くご参加いただいております。

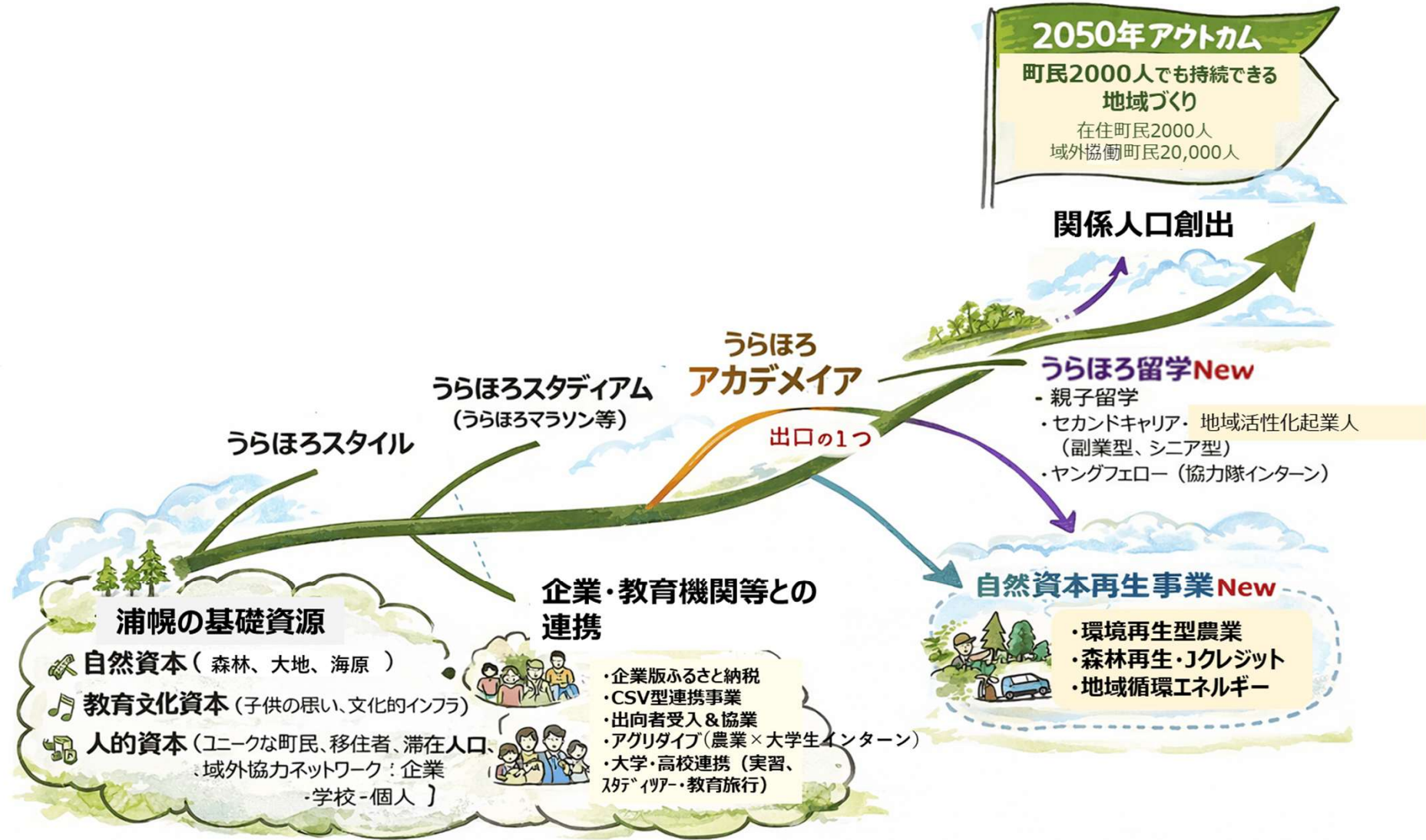
第0期から8名アカデミアにご参加いただき株式会社インフォマートが複数回来町しモニターツアーを実施。

「環境再生型農業（リジェネラティブ農業）」に関する販路開拓や研究開発の両面から協働。浦幌町への企業版ふるさと納税寄附や十勝うらほろ樂舎のリジェネラティブ基金へ寄附もしていただく。



2025年10月第9期参加者の野間 幹子さん（国分グループ本社  
執行役員 社長室長 兼 サステナビリティ推進部長）が、  
2026年1月より十勝うらほろ楽舎へ出向。  
企業として『食の未来』の問いを構造的に捉え直す。

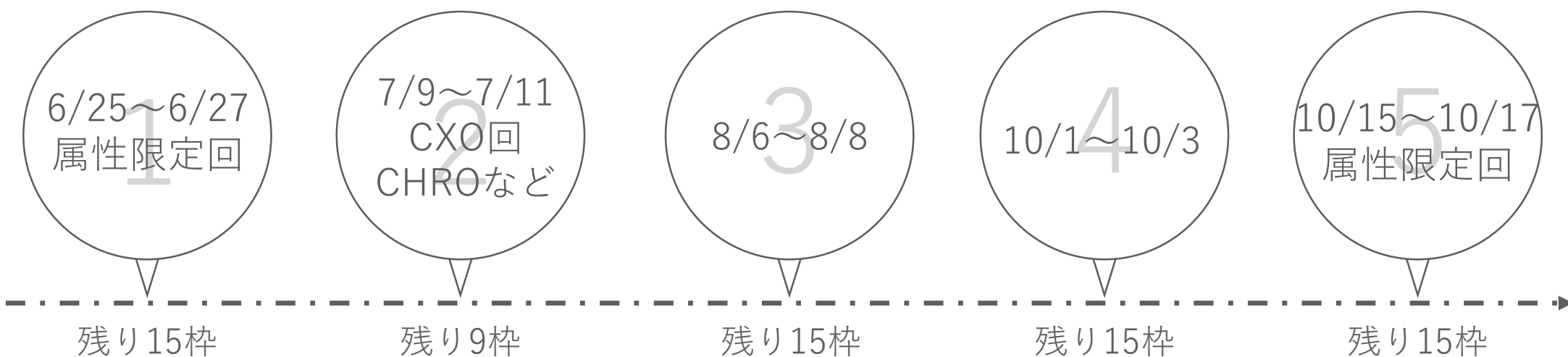




親子留学を2026年より開始。うらほろアカデメイア含むこれまで企業の関係人口を親子・家族としても来ていただけるプログラムを構築していく。



今年度好評だったCHRO回をCXO回として開催、  
その他、2回属性限定回、2回通常回として実施を予定。



十勝うらほろ楽舎



新潟県南魚沼市、魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、群馬県みなかみ町、長野県栄村の3県7市町村  
事業者名 一般社団法人 雪国観光圏



# 雪国発越境学習プログラム 帰る旅 地域ビジネス人材 クリエイターズCAMP



第2のふるさと  
A NEW HOMETOWN

## 次世代リーダー人材に求められる 共創力を育て、イノベーション創出を支援する 多業種横断型の越境学習プログラム

### 企業・自治体人材の 次世代リーダー創出を支援する越境学習

帰る旅プロジェクトから生まれたメソッド（関係性ビルディング・プロジェクトマネジメント等）を活用。企業・自治体人材向け研修として再開発。地域と向き合い、共創からイノベーションを起こす次世代リーダーの育成支援プログラム。

### 多業種・多職種の人材と

#### 「共創」するプロセスを学ぶ

参加者個人が「わたしのパーパス（社会への存在価値）」を発見し、それを企画・事業に紐づけ、新たなイノベーションのアイデアを創出することを支援。



「帰る旅 地域ビジネス人材クリエイターズCAMP」プログラム実施日程・内容

■10/3 参加者合同キックオフ（約2時間）

オンライン

■10/28-30

**コーチング編**

自己理解・他者理解／積極的傾聴

**プロジェクトマネジメント編**

「わたしのパーパス」の探求／

企画アイデア創出

**ファシリテーション編**

場づくりのノウハウ

**地域ブランディング編**

共創から行うブランディング手法

**地域事例の視察会（圏内3か所）**

・地域内共創により自社の価値を進化・成長している企業事例を視察。

現地3日間研修@南魚沼市

■各自 参加者×メンター個人面談会（各30分～1時間）

伴走役のメンター（地域コーディネーター）が不明点、不足点をフォロー

オンラインor現地対面

■11/20-21 **成果発表会**

参加者各自が企画アイデアを共有、アドバイスを重ねる

現地2日間@南魚沼市

再来訪促進のための任意参加企画

■11～1月 **オプション企画（費用別途）**

さらにつながりを深め知見を得たい参加者向けにテーマ別「地域しごと&地域のくらし疑似体験イベント企画」を開催、再来訪機会を創出（計7企画）

現地@圏内エリア

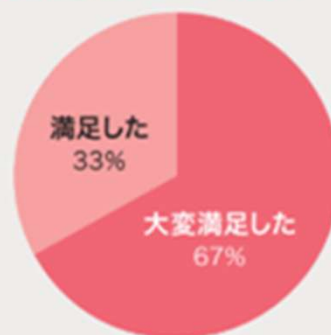
## 定量面のアウトプット

- 研修参加者：10名（UU）
- 延べ泊数：22人泊
- 再来訪率：100%  
（3回以上来訪：3名）
- 地域内消費額：42万3000円  
（1名平均4万2300円）
- 地域コーディネーター：5名創出



研修満足度(5段階評価)

総合的な満足度をお聞かせください



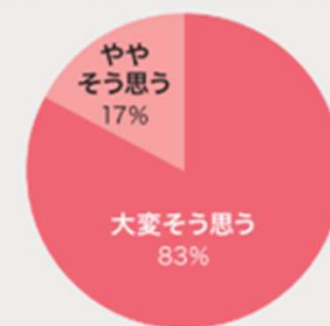
※その他選択肢(どちらでもない/やや不満だった/大変不満だった)は回答者なし

「自身を考える機会」「他業種との交流」「スキル向上」などに評価、「強いて言えば他業種の企業の方も参加されているとより良かった」と参加者の多様性をさらに求める意見もあった。



業務での活用(5段階評価)

研修で学んだことを今後の業務に活かしたいと思いますか



※その他選択肢(どちらでもない/あまりそう思わない/全くそう思わない)は回答者なし

補足質問：業務での活用について(任意回答より抜粋)

どのような点が活かせそうですか

「職場内外の方々との関係性づくり、自分のパーパスを意識した取り組み」(自治体/40代)

「ソーシャルスタイル分析、ファシリテーションスキル→社内での円滑なコミュニケーション。積極的傾聴→営業スキル」(企業/20代)

「パーパスを筆頭に自己分析を行い、事業を進めるうえで、方向性を確立することができた」(起業人材/40代)

## 定性面のアウトプット

- **成果：プログラム開発、人材発掘**

既存のノウハウを活かした企業・自治体のビジネス人材向けプログラムとしてのプログラム開発の面、および運営協力人材（メンター兼地域コーディネーター）の発掘・育成について成果。今後の事業利益拡大のため内部講師の育成も着手中。

- **課題：販売促進の提携パートナー発掘**

翌期に向け、多様な業種・職種企業の参加＋人数の確保のため、地元メディアが手掛けるUIターン促進事業との販売連携を検討中。

観光閑散期や平日宿泊需要促進の解決策の一つとして期待している。

地域名 石川県七尾市・輪島市  
事業者名 株式会社JTB 金沢支店



# 能登半島地震復興ワーケーション事業

— 関係人口から行動人口へ —



感動のそばに、いつも。

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

## ■背景

- ・観光・交流人口の減少により地域経済への影響が顕在化
- ・地域事業者の担い手不足や復興支援ニーズが高まる中、継続的な関係人口創出が課題
- ・一過性の支援ではなく、企業との継続的な関係構築が求められている

## ■目的

- ・企業ワークショップを通じた復興支援モデルの検証
- ・「関係人口」から地域と継続的に関わる「行動人口」への発展
- ・企業と地域の持続的な関係づくりによる復興支援の推進



## ■事業概要

2024年1月の能登半島地震を受け、石川県七尾市・輪島市において、復興支援や人材育成に関心を持つ企業と地域をつなぐ復興ワークショッププログラムを実施。被災地視察や語り部講話、地域関係者との対話を通じ、企業が地域課題への関与を検討する機会を創出し、「関係人口から行動人口へ」の実践を志向した取組として実施した。



## ■事業内容・プログラム構成

- ・被災地視察（七尾・輪島エリア）
- ・地域関係者との意見交換
- ・復興ワーケーションプログラム設計・検討（ガイドスクリプト作成・ガイド育成）
- ・復興ワーケーションプログラムへの受入調整（輪島市門前・七尾市田鶴浜地区）

### ①ガイドプログラム造成・ガイド育成



### ②七尾市内ボランティアセンターの視察



### ③和倉温泉復興計画に関する講義



## ■対象・参加状況

- ・CSR、人材育成、地域貢献に関心のある企業を対象
- ・参加企業：7社 延べ参加者：約163名

## ■実施体制

- ・地域団体（能登DMC等）と連携しプログラム運営
- ・JTBの企業営業ネットワークを活用したプログラム販売
- ・地域関係者（輪島市門前・七尾市田鶴浜地区）との調整・受入体制整備
- ・ランディングページ制作とANAのホームページやSNSを活用した事業広報

<ランディングページ・販促チラシ>



## ■事業成果

- ・企業7社・延べ約163名が参加し、被災地理解の促進および地域交流機会の創出
- ・地域関係者との対話を通じ、企業の継続的関与の契機を創出
- ・復興ワーケーションモデルの検証的取組を実施

## ■地域側の効果

- ・企業との新たな関係人口創出の可能性を創出
- ・地域活動への理解促進と継続交流の可能性創出
- ・受入体制整備による今後の基盤形成につながる取組を実施

## ■企業側の効果

- ・CSR・人材育成の実践機会の創出
- ・地域課題理解と企業活動の接点形成
- ・継続訪問や地域関与に関する検討意向が一部企業で確認された

## ■今後の展開

- ・企業ワーケーションの継続実施による関係人口の定着・深化
- ・地域との継続的交流を前提とした受入体制の強化
- ・復興ワーケーションモデルの他地域展開検討
- ・企業と地域の持続的関係構築に向けた仕組みづくり



## ■本事業のまとめ

- ・能登半島地震後の復興フェーズにおいて、企業ワーケーションを通じた新たな関係人口創出のモデルを実践
- ・企業と地域の対話機会を創出し、「関係人口から行動人口へ」のモデル構築に向けた実践を実施
- ・地域受入体制整備や継続交流の可能性など、今後の復興ツーリズム展開に向けた基盤形成に寄与

## ■今後に向けて

- ・企業と地域の継続的關係構築を通じた復興支援の深化
- ・モデルの横展開による持続的な地域活性化への貢献



<ガイドプログラムの様子>



<ANA実施広報>



◎タイトル：<能登復興ワーケーション> あなたの仕事があなただの未来をつくる力になる。

◎テキスト：

2024年1月1日の能登半島地震から2年が経過し、復興を歩む能登。  
震災地の復興支援と企業のCSR・人材育成を結び付けることを目的に「能登復興ワーケーション」がスタートしました。

地域名 長野県千曲川流域/しなの鉄道沿線地域  
事業者名 ワークेशनまちづくりラボ（株式会社ふるしきや）



# ワークेशन発！ 広域”レボ系“プログラムを通じた共創HUB

'REVOLUTION' & 'WORKATION'

# レボ系ワークेशन

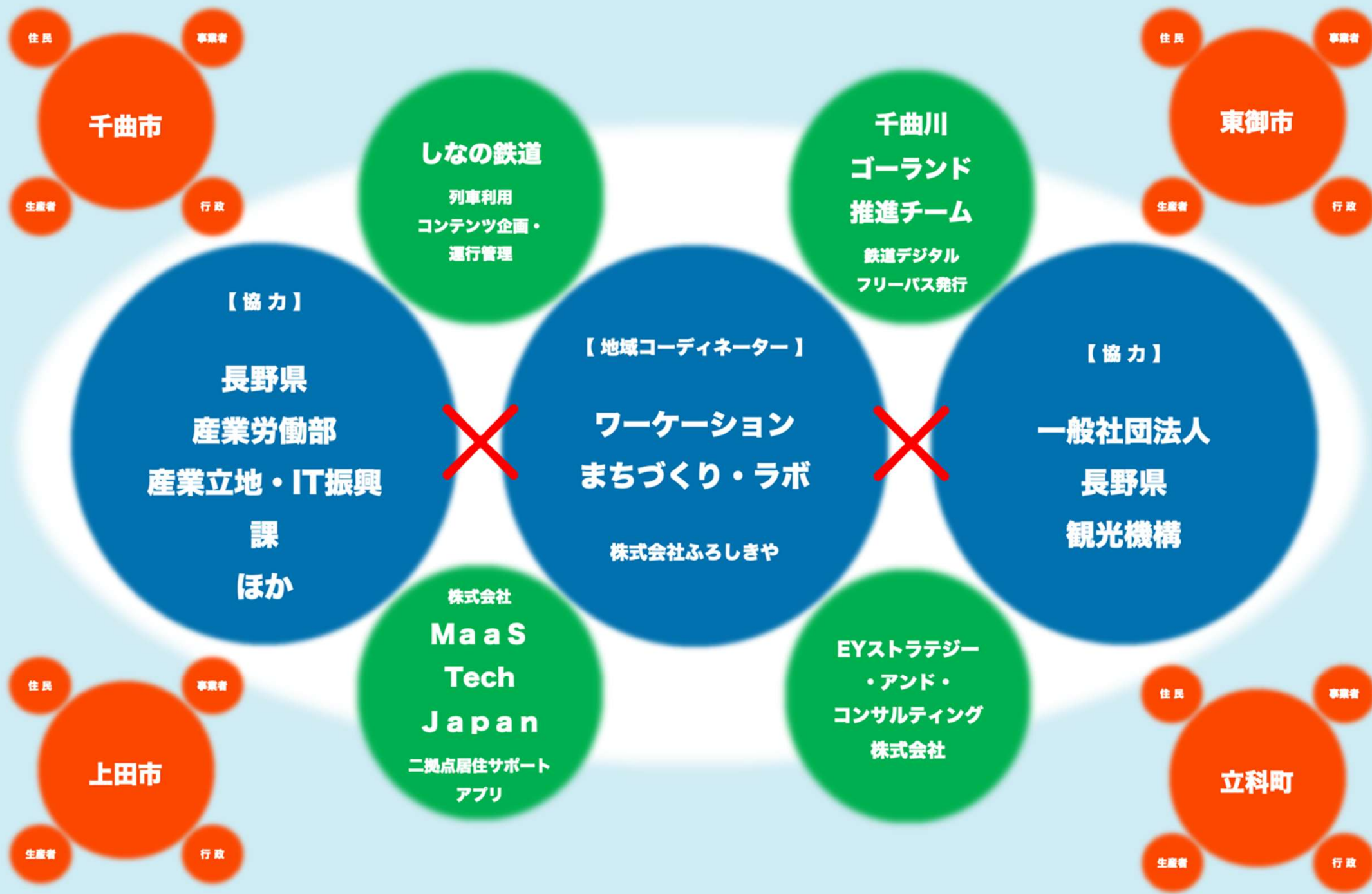
第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

## 【 実施主体：ワーケーションまちづくりラボとは 】

「ワーケーションまちづくりラボ」は、2019年から【ワーケーションは可能性の入り口】と捉え、ワーケーションでの出会いを通じての様々なプロジェクトを行ってきました。これまで6年間で計18回のワーケーション・イベントを実施、700名を超える方に参加いただき、  
**企業と個人両方の人格で、豊かな出会いを演出してきました。**





ありえない  
資源を  
ハックする。

Powered by  
"REVOLUTION" & "WORKATION"  
レボ系ワーケーション

法人も個人もさらなる可能性を追求する  
五感全開アクセラレーションプログラム

# 千曲川流域を舞台に、 企業の **「ものがたり」** を創る、 そして始める。

私たちは、全国発信や全国展開（海外展開も）を狙った  
ソーシャルグッドな挑戦的かつ実験的な事業づくりに  
千曲川流域の資源を使ってもらいたい。それが、

## **[レボ系アクセラレーションプログラム]**

※アクセラレーションとは「加速、促進、高速化」などを意味する言葉。  
ビジネス分野では企業や事業の成長を短期間で促進する取り組みを指します。



自社の事業を地域創生に活用して、  
社会貢献に役立てたい。

CSR活動に偏りすぎず、  
事業KPIで語れる  
地域連携がしたい。

活用できる資源を  
もっと大きく捉えて、  
スケールの大きな事業を  
思い描いていきたい。

社会にベクトルが向いている自治体や団体との  
連携を前提とした出会いを求めている。

地域での継続可能なビジネスモデルを、  
地域の人とともに構築したい。

**プログラム①** [ 思考越境リレーションシップ ] (千曲市／上田市)

**①-A**日程：10月16日(木)-17日(金) / **①-B**日程：10月30日(木)-31日(金)

\* A-Cは同じ内容、どちらかに参加

**プログラム②** [ 千曲川資源体感ツアー ] (地域別)

**②-A**日程：11月17日(月)-18日(火) (千曲市／上田市)

/ **②-B**日程：11月20日(木)-21日(金) (上田市/東御市/立科町)

\* AとBは内容・地域ともに異なる、両方参加またはどちらかに参加

**プログラム③** [ 構想合宿&プレゼンテーション ] (立科町)

**12月18日(木)-20日(土)** \* 1日程で全日参加のみ

内容	1名参加	チーム参加	①-A/B/Cのいずれか	②-A	②-B	③
フルパッケージ	15万円/名	12万円/名	○	○	○	○
フルパッケージ	12万円/名	9万円/名	○	○		○
フルパッケージ	12万円/名	9万円/名	○		○	○
前半参加	9万円/名	7万円/名	○	○	○	
前半参加	6万円/名	4万円/名	○	○		
前半参加	6万円/名	4万円/名	○		○	
後半参加	12万円/名	10万円/名		○	○	○
後半参加	9万円/名	7万円/名		○		○
後半参加	9万円/名	7万円/名			○	○
プログラム①お試し参加	3万円/名	2万円/名	○			



短時間での演出：同じ経験を共有し、相手を知り、自分を曝(さら)け出す



資源を知る：地域の仕掛け人のネットワークと思いを詰め込む



プレゼン&フィードバック：短期集中型でブラッシュアップと発表を繰り返す

宿泊の人泊は46人泊  
全体の延べ参加者は107人・日

東京ガイドンス	人数
9月26日@kyobashi TORSO	8人
9月27日@3×3Lab Future	8人
10月10日@銀座 NAGANO	12人
10月11日@seesaw	5人
合計	33人

プログラム外での来訪	人数
合計	4人・日
宿泊者数	2人・泊

モニタープログラム①	1日目	2日目
1回目：10月16日～17日	3人	2人
2回目：10月30日～31日	19人	4人
合計	29人・日	
宿泊者数	21人・泊	

モニタープログラム②	1日目	2日目
1回目：11月17日～18日	5人	5人
2回目：11月20日～21日	8人	5人
合計	23人・日	
宿泊者数	11人・泊	

モニタープログラム③	1日目	2日目	3日目
12月18日～20日	5人	6人	7人
合計	18人・日		
宿泊者数	12人・泊		



「日本の文化をサブスクで守る事業」  
GooD Pass & Co 山本さん



「地域の助け合いを作るライドシェア」  
合同会社エストラン 須田さん



「社員のエンゲージメントを  
上げる温泉街の活用」  
日本電算企画 吉本さん



「スマートICを活用した  
観光ハブ構想」  
MaaS Tech Japan 清水さん



「地域産業の人手不足を  
解消する」  
長野県観光機構 北林さん

SMILE & ARRANGEMENT

## 千曲川レポ系アライアンス

from CHIKUMA RIVER REGION

今回のアクセラレーションプログラムを経て、  
地域内外の企業と人がやりたいことをぶつけ合い、  
地域課題の解決につながるプロジェクトが始まっています。



〔構想発起人〕  
コーディネーター：田村さん

交通空白  
地帯対策

〔PROJECT〕  
まちづくりに  
寄与する  
乗り合い型  
ライドシェア



共助型ライドシェアシステム開発者  
合同会社エス・トラン 須田さん



国際大学GLOCOM 共創の伝道師  
小林さん

追手門学院大学 地域創造学部  
岡田さん



娯楽好きコピーライター  
グッドバス・アンド・コー株式会社  
山本さん

長野市  
NAGANO



〔上田市エリア〕  
コーディネーター：宮尾さん

〔上田・東御市エリア〕  
コーディネーター：安藤さん



居場所  
づくり

hyvä sauna  
ととのえ師



〔PROJECT〕  
娯捨の棚田  
カルチャー  
サブスク  
プロジェクト

千曲市  
CHIKUMA



〔千曲市エリア〕  
コーディネーター：鍛冶さん  
娯捨ゲストハウス なからや店主

〔PROJECT〕  
大屋HUB  
まちづくり  
プロジェクト



〔東御市エリア〕  
コーディネーター：浅川さん

海野宿「上州屋」オーナー

関係人口  
対策



〔千曲市エリア〕  
コーディネーター：清水さん

戸倉上山田温泉 おせっかいハウス  
昭和の寅や女将

上田市  
UEDA

東御市  
HIGASHI-UTSUNOMIYA

〔PROJECT〕  
サウナ  
×ワーケーション  
×コミュニケーション  
=サウナケーション  
プロジェクト

地域名 三重県大台町  
事業者名 大台町子どもプロジェクト推進協議会



# 「ラーケーションの日」と ワーケーション連携による 第2のふるさとづくり

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

1. 学校公休制度「ラーケーションの日」で社員家族の平日来町
2. 地域ボランティア活動（第2の担い手）
3. 来町する強い理由トヨタ三重宮川山林

### 【継続的な来訪動機】

- ➡ 「見えない学力・非認知能力」教育効果実感
- ➡ 自己成長・ウェルビーイング
- ➡ 社有林の資産性

## 【設定日程】

- ・計7シリーズ・25日間
- ・「ラーケーションの日」対応：月金13日間)

## 【催行】

- ・5回（内1泊2日1回）・19名（内宿泊3名）
- ・反復来訪2名 反復率14%（2回・5回）
- ・ラーケーションの日 0組

## 【理由】

- ・企業内の3つの部署との連携を試行
- ・実施期間が約2か月と短期
- ・冬期という環境がリスク



満足度  
100%

再来訪  
希望  
100%

1. 「第2の担い手」の必要性和実効性の証明



2. 「教育・問題解決型」観光という新領域



3. 町観光振興計画に「ラーケーション」や交流人口が明記

1. 観光以上・移住未済の第2の担い手経験
2. 地域貢献のプロジェクト化（出番と居場所）

➔ 「消費を待つ観光」から「地域維持の仕組み」としての観光（貢献型観光）へのシフト

### 【課題】

- ・ ボランティアの有料化へのジレンマ
- ・ 交流空間や拠点（共有知の場）の創造
- ・ 地域、行政の理解深化

## 【トヨタ自動車連携】

1. 労働組合連携が実現へ 7月開催  
冬季除く四半期ごとの実施
2. ラーケーションとラーケーションの日検証

## 【行政地域連携】

1. 近消滅集落とのプロジェクト
2. 観光事業者との地域勉強会

地域名 島根県隠岐郡  
事業者名 海士町

# 離島医療の魅力化による 関係人口拡大PJ



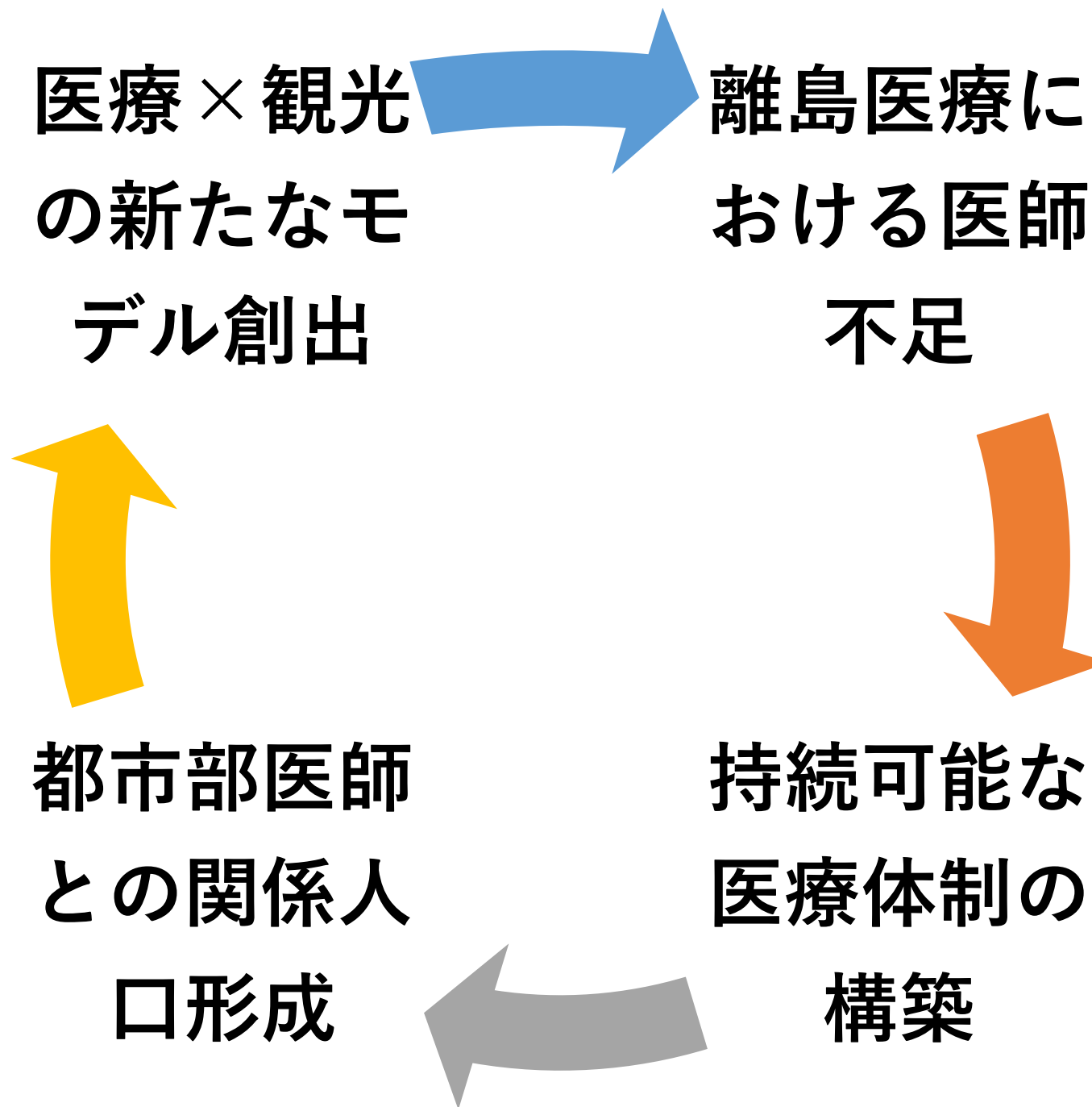
第2のふるさと  
A NEW HOMETOWN

## ○事業背景

海士町はこれまで様々な交流事業に取り組んできたことから、企業と連携協定を締結し、地方創生に取り組んでおり、現在、10名程度の地域活性化企業人を受け入れている。しかしながら、いずれも観光や商工を中心とした分野であり、医療に関しては連携協定や、二拠点居住といった関係人口の構築までには至っていない。離島などの過疎地域において医療人材の確保は住民がその土地で住み続けるためには不可欠なものであり、都市部の医療人材や医療関係の法人等が離島をはじめとする過疎地域を第2の拠点（ふるさと）として関り続ける仕組みを構築することは、地域の持続性につながるだけでなく、多くの患者に対応しなければならない都市部の医療人材にとっても、人口規模の少ない地域で患者一人ひとりと向き合う体験は、仕事へのモチベーション向上や人材育成にもつながるものである。

## ○解決したい課題

海士町では、令和6年度まで2名の常勤医師体制で30年近く安心安全な医療の提供（医師の交代制による救急体制をとり、365日24時間の医療体制を確保）してきたが、医師の働き方改革や島の医療体制の持続可能性の観点からは、海士町に定住する常勤医師だけでなく、関係人口として関りのある医師（住民の安心の観点から、関係性のある医師の継続的な関わりが重要）を代理診療等で定期的に関わってもらいながら、複合的・持続的な医療体制の構築が求められる。



海士町とすでにかかわりを持ち離島医療のために派遣を実施しているような医療関連法人のネットワークを対象に実施し、複合的・持続的な医療体制の構築が求められる。

- ①医療人材を対象に離島医療会議のようなへき地医療の現状や課題を学ぶ研修機会の提供
- ②観光協会等と連携し離島の自然や文化に触れることで心身を整える観光体験の提供
- ③診療所における代理診療を行うことでへき地医療に実際に携わる機会の提供

これらを組み合わせる（医師のワーケーションとしてパッケージ化する）ことで、医療人材や医療関連法人と海士町との関係性を高め、持続的な医療関係者の還流を促すことで、観光振興と持続可能で安心・安全な離島医療環境の充実との両立を目指す。

事業概要

想いのある医師にアプローチ

離島医療の現状・課題を学ぶ機会  
(研修・離島医療会議等)

関係人口である医師のワーケーション

離島の自然・文化を感じる機会  
(観光・宿泊)

離島の診療所で実際に働く機会  
(代理診察等)

観光でお金を"使う"  
【消費で地域に貢献】

地域でお金が循環

働くことでお金を"稼ぐ"  
【仕事で地域に貢献】

海士町公式アンバサダー制度や離島医療会議を通して関係性を継続

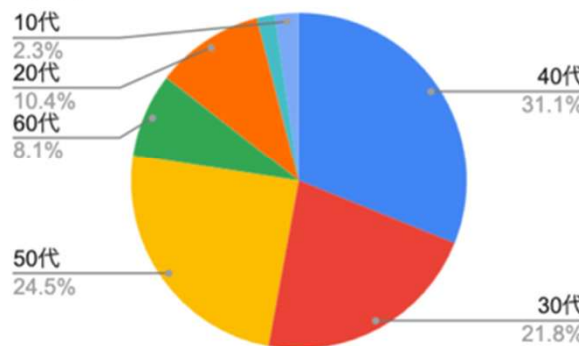
## ① 離島医療会議の開催

令和8年1月30日に三重県伊勢市で離島医療会議を開催。(次の日はフィールドワークも実施。)これまで隠岐だけで開催してきたが、他の離島を巻き込んだ離島医療の課題等の情報発信・関係者への共有の場として実施。これにより、共通の課題を抱えているネットワークの構築、離島間の連携した医療体制の構築を目指す。

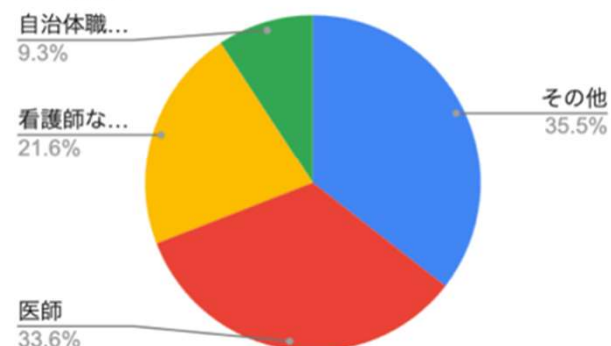


517

年代



ご職業



## ・ MaaS車両（オンライン診療） 見学の様子



## ・ 答志島オンライン診療視察の様子

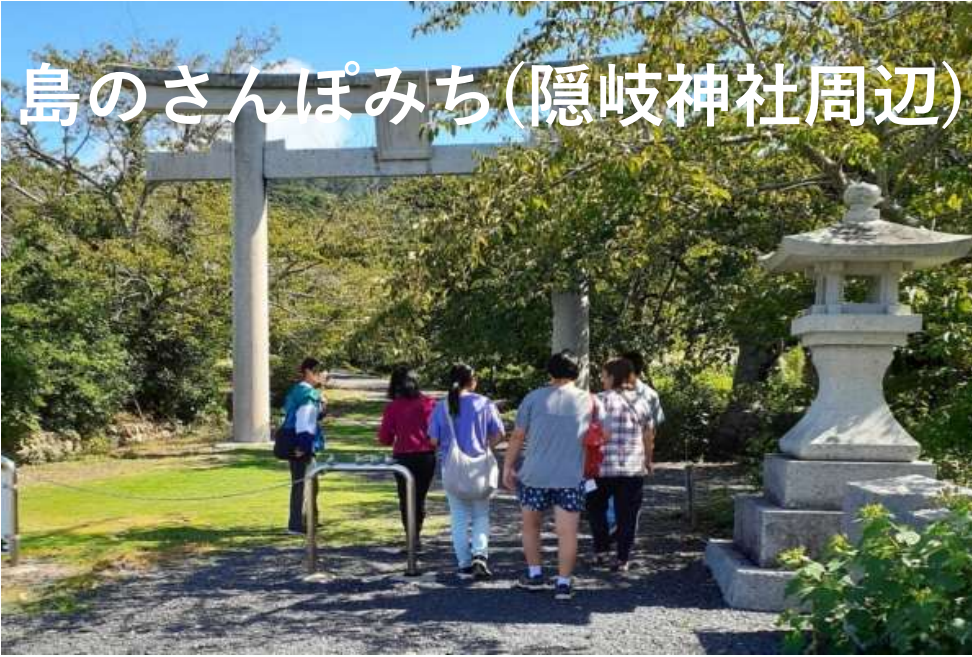


## ②観光体験の提供

隠岐ユネスコ世界ジオパークの眼前に広がる手つかずの地球（ジオ）の風景を満喫。自転車で島を一周するなど、ちょうどいい島のサイズ感、生活感を味わう機会を創出し、ワーケーションによる島での時間の満足度を高めていく。



島のさんぽみち(隠岐神社周辺)



夜の隠岐神社まiori



隠岐島前プライベートクルージング

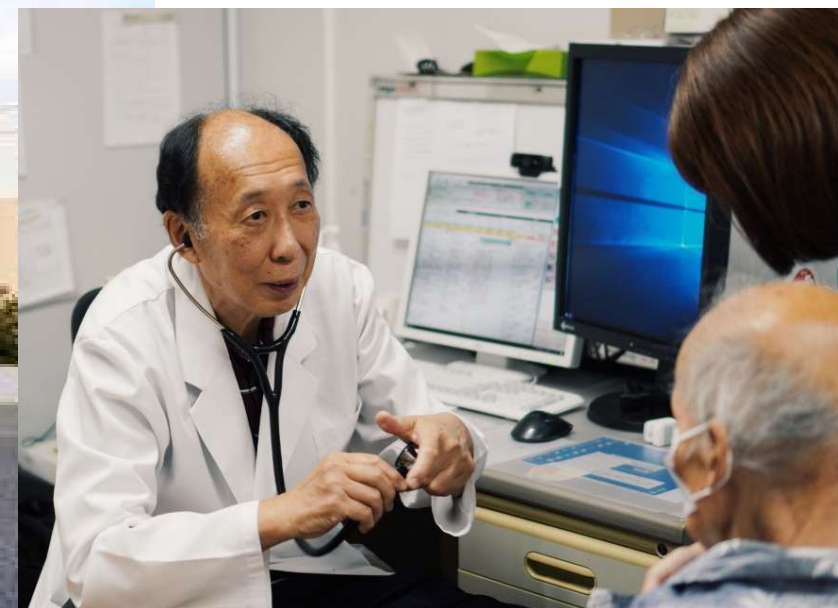


体験ダイビング



### ③ 離島医療の提供(代診)

診療所として島外の医師の代理診療の受け入れを行うとともに、円滑な受け入れに向けて、医療DX（ICTによる医療・ヘルスケアの充実や医師・看護師の働き方改革等）の推進により、魅力的で持続可能な医療体制の構築を図る。



## ○取り組みの成果（定量的なアウトプット）

- ・ 来訪者、再来訪者：3人(医師)
- ・ 延べ宿泊数：70人泊
- ・ 地域消費額：2,000,000円

⇒ 関係人口医師の確保に向けて連携実績のある企業：3社(新規1社、既存2社)

**次年度以降は、企業とワーケーション事業を実装へ**

## ○取り組みの成果と課題（定性的なアウトプット）

世界ジオパークに認定されている自然や伝統文化等の観光体験を通じて、医師の関係人口が増え、海士町において代理診療が可能な医師（法人からの派遣・紹介を含む）を複数名確保することができた。また、代理診療医師の滞在期間について、長期間（2～4週間）も可能となっており、医療体制の充実に加えて、宿泊施設や飲食店を含めて観光面での経済効果も高まっている。

- ・ 今後、持続的な体制を構築するために民間と連携した複数年度に体制作りが必要。今回の事業のおかげでその体制づくりを図ることができた。さらに、町としてアンバサダー制度という寄附、投資による町の事業支援、つながりを持つことができていることから、DXの活用（電子通貨によるふるさと納税支援、流用、情報発信）による再来訪に向けた仕掛けを続けていく。
- ・ 決裁等から企業のトップの方との関係構築がなければ意思決定までに時間がかかってしまい、地域課題への対応が遅れてしまう懸念も。
- ・ フェリーの船員不足という離島における雇用、労働に対する別の条件から船の減便などから来島への参加の制約となり、関係人口の交流機会を減らすきっかけにならないか。

地域名 香川県仲多度郡琴平町  
事業者名 株式会社地方創生



「観光まちづくり」で企業のミライを

コトひらく町・琴平

地方創生

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

## 背景

琴平町では「個人」の関係人口づくりは進んできたが、「企業」目線での関係人口創出はまだ動線づくりが不十分。観光まちづくりを軸に、企業との新しい関係構築が必要。

## 仮説

企業ごとにニーズをカスタマイズした滞在プログラムを設計すれば、「観光まちづくり」を軸に企業の反復来訪と地域への還元が実現できるのではないか。

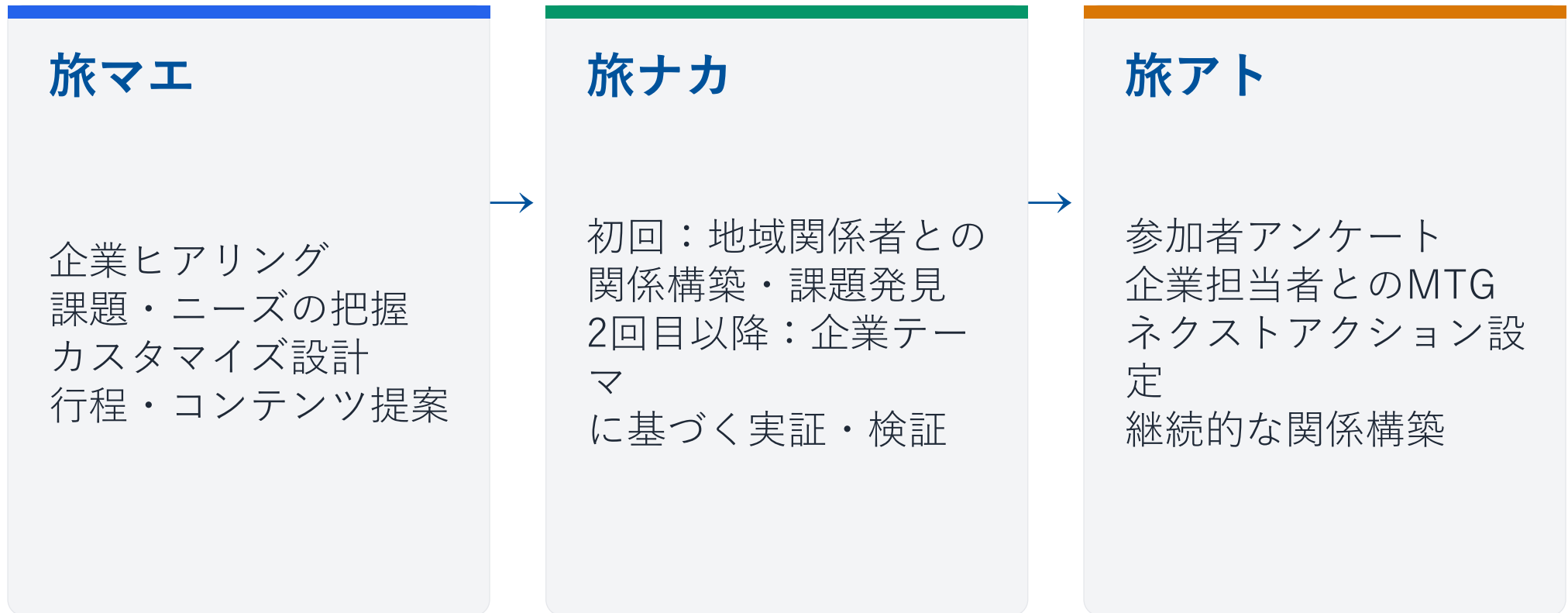
## ターゲット像

琴平が目指す「観光まちづくり」に共感し、観光分野への新事業や人材育成に注力したい企業層

## 主要KPI

参加企業数：5社以上  
宿泊事業者の収入増加：100人泊以上  
参加者の再来訪意向度：90%以上  
PRイベントからの来訪希望企業：5社以上

「旅マエ → 旅ナカ → 旅アト」の一気通貫モデル



受入環境の整備

**宿泊拠点**：コトリコワーキング&ホテル琴平 / コトヒラクラスカス  
 交通：高速バス乗り放題チケット / 琴平mobi

**地域コーディネーター**：3名育成

## 新規事業実証

### カヤック（神奈川）

音声街歩きガイドを通じた関係人口化 / AI活用の採用支援サービス検証。

### Arinos（東京）

CVC（コーポレートベンチャーキャピタル）を活用した地域事業の成長支援モデルの検証。



## 人材育成・組織開発

### 関西電力（大阪）

リトリート型研修の共同開発 / ワークーションプログラム。内省と対話を重視した滞在プログラムを設計・実施。



## 地域共創・関係人口

### TABIPPO（東京）

地域事業者11社との特典提供の仕組みを構築。

### chikaken + 和平

竹あかりイベントでナイトタイムエコノミー創出。地元住民・ボランティアとの協働。



参加企業数

**6社**

目標5社 → 達成

延べ宿泊数

**97人泊**

目標100人泊 (97%)

PRイベントでの  
来訪希望

**8社**

目標5社 → 達成

延べ参加者数

**46人**

(実人数31人)

再来訪率

**35.5%**

2回:6人 / 3回:5人

地域消費額

**約122万円** (概算)

### コーディネーター育成

目標3名 → 3名達成。

新規採用1名が着任し、複数企業の並行受け入れ体制が整備された。

## ① 地域事業者との共創

TABIPPOの仕組みにより地域事業者11社と特典提供が成立。  
chikakenの竹あかりイベントで参道のライトアップが実現し、ナイトタイムエコノミーが出現。

## ② 官民連携の強化

関西プロモーションイベントに琴平町長が登場。行政と事業者が一体となった企業誘致の対外発信が実現。参加者の81.6%が共創に前向きな回答。

## ③ 関係人口の多様化

6社の企業社員が地域住民・事業者と交流する機会が増加。琴平町を「第2のふるさと」として認識する関係人口の裾野が広がった。

## 関西プロモーションイベント実績

参加45名 / 満足度9.08点 / 共創意向81.6%  
**個別相談希望 8社を獲得**



## ① 再来訪のハードル

担当者レベルの熱意だけでは、組織としての意思決定と予算確保に届かない。初回来訪のみに留まった企業もあり、第2回以降の継続来訪の導線づくりが課題。

## ② コーディネーターの質と量

企業ニーズに合わせたカスタマイズ型のコーディネートは高いスキルが求められる。プログラムを設計・運営できる人材の育成と、地域内連携のさらなる強化が不可欠。

## ③ 自走化の収益モデル

持続可能な事業構造への移行が必要。コーディネート料の収受モデルへの移行に際し、企業に付加価値を納得してもらう設計が求められる。

**課題：再来訪**



**意思決定者の早期巻き込み**

初期段階（イベント・問い合わせ・初回打ち合わせ）から意思決定権者をプロセスに巻き込み、来訪目的の設定・予算確保・社内合意形成を早期に進める体制を整備。

**課題：人材**



**4種類のパッケージ型プログラム**

- ①共創視察（役員、新規事業開発担当者）
- ②次世代リーダー研修（管理職）
- ③若手向け主体性開発研修
- ④チームビルディング研修

**課題：収益**



**自走化モデルへの段階的な移行**

適切なコーディネート料を設定をするとともに自走化への段階的な移行を進める。都市圏でのパートナーとの連携による参加の企業開拓や関西圏などでのPRイベントの継続、既存参加企業からの紹介で販路拡大を図る。